No.25 | June 2026

イランのことば

殉教したイスラーム革命指導者大アーヤトッラー セイエド・アリー・ホセイニー・ハーメネイーとの別れに際して

アッラーがその清らかな魂を聖なるものとしてくださいますように



立ち上がるべきだ












「殉教した指導者が語った、発展の方向を定める戦略的なキーワード」 4

イスラーム革命指導者の殉教に際し、大統領、ムジュタヒド、最高位のイスラーム学者から寄せられた哀悼の電報 6

殉教した指導者の葬儀:現代世界史の重大な節目 — モハンマド・マフディー・イーマーニープール 8

全能の神の御名において:アリー・アッバースィー博士による、殉教者イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの葬儀に寄せた論考... 17

イスラーム革命の最高指導者が語る、殉教したイスラーム革命指導者の特質... 20

亡き指導者に対するイマーム・ホメイニーの見解 32

最期の息まで... 34

殉教者アーヤトッラー・ハーメネイーの後継者は誰か 38

ペルシャ湾とホルムズ海峡について、殉教したイスラーム革命指導者が述べた10の戦略的要点 42

イラン国民に向けた、殉教した指導者の「イスラーム革命の第二段階」に関する声明から 44

イスラーム革命の偉大な指導者から、欧州と北米の若者への手紙 46

イスラーム革命指導者から西側諸国の若者への第二の手紙 49

パレスチナを支持する米国の大学生への手紙 53

大アーヤトッラー、セイエド・アリー・ハーメネイーの殉教に寄せられた、諸外国の要人のメッセージ 56

アフマド・アモル・ザバル(英国)の二つの詩 62

イラン・イスラーム共和国最高指導者セイエド・アリー・ハーメネイーの殺害に際しての、プーチンの弔意 66

ディン・シャムスッディン — インドネシアの著名なイスラーム思想家・活動家の一人 70

ムハンマド・ファイサル・アブドゥル・アジズ — マレーシア弁護士会会長、弁護士 71

アドルフォ・モルガンテ教授 — イタリアの宗教間対話の教授 72

イスラーム革命最高指導者とミーナーブの子どもたちの殉教:国際法と人権に対する意図的な侵害 73

正義のこだま:イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの構想の中心にあるアフリカ — シェイフ・アブドゥッラー・マクウィンジャ 77

イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイー(アッラーがその清らかな魂を聖なるものとしてくださいますように)、フサインの精神の復興者 — マリア・パメラ・J・サゴロ 83

傑出した人物の高みへ:守護者が殉教の山から下りるとき — ムハンマド・アル=バフル・アル=ミフダル 86

「亡き指導者の後継者を定めるための、憲法に基づく手続きの実施」 92

イランのことば

No. 298 | June 2026



イスラーム文化・交流機構
学術・文化協力の発展を
担当する副長官

ホセイン・ディーヴサーラール博士

編集責任者
マフディー・ファイヤーズィー

編集長
ハミード・ロスタミー

管理部門責任者
マルヤム・ハムゼルー

グラフィック・デザイン
オミード・ベフザーディー

イスラーム財団の雑誌

アフカール、郵便番号:
14155-3899
イラン・イスラーム共和国
テヘラン

電話:
+98 (21) 5-88897662

FAX:
+98 (21) 88902725

Website: www.alhodapub.com

Email: alhodapub@gmail.com

巻頭言



「殉教した指導者が語った発展の方向を定める戦略的なキーワード」

執筆：マフディー・ファイヤーズィー（本誌編集長）

世界的指導者であり、殉教者となった大アーヤトッラー、セイエド・アリー・ハーメネイー（その清らかな魂が聖なるものでありますように）は、不安定な時代と地域における36年間の統治を通じ、科学とクルアーンに基づく国家運営の手法に加え、革新的な手法も用いた。その使命は、イラン国民と、世界の抑圧され、恵まれない人々、そしてムスリムの共同体に持続的で根本的な社会発展をもたらすこと、さらに国民とイマームの指導を結びつけ、実りある協調的な運動を生み出し、組織することにあった。

彼が用いた手法の一つは、根本を成し、戦略性を備え、未来を見据え、改善を促すキーワードを生み出すとともに、それを言説の形成と実践を通じて広く浸透させることであった。これらのキーワードは、短期的・中期的なニーズに応えるだけでなく、長期的に国内から国境を越えた地域、さらには地域を越えた広い範囲に広がる展望を示すものでもあった。その源にあったのは、統治の原理、科学の基礎、クルアーンの教え、そして共同体が前進するために求められるものを、一つの概念体系として捉えた考え方であった。

彼の盛大な葬儀に際し、これらのキーワードと、その指導における重要な節目を振り返ることは、世界各地の彼の追随者が忠誠を捧げるとともに、進むべき道の方向を確かめることを目指すものである。

主要なキーワード

- 科学の発展運動
- 知のジハード
- 知識に基づく取り組み
- 職業上の良心
- 労働の倍増
- 努力の倍増
- ジハードの精神による運営
- 抵抗の経済
- 生産の飛躍
- ソフト戦争
- 文化的侵攻
- 文化的NATO
- 自主的な行動
- 根本的な変革
- 文化的補完策
- 文化の設計
- 政治的叙事詩
- 説明のジハード
- 覇権の拒否
- 傲慢な支配との闘い
- 西アジア
- イスラームの覚醒
- 抵抗の枢軸
- 戦略的縦深
- ネットワークによる連携
- 民衆の覚醒
- 民衆の参加
- 民衆の動員
- 希望
- 自尊心
- 「私たちにはできる」
- 頂点
- 宗教に基づく民衆の民主主義
- 自己の陶冶
- 社会の建設
- 体制の構築
- 文明の建設
- 革命の第二段階
- 新たなイスラーム文明
- 新たな世界秩序
- 人口の若年化
- 人材の若返り
- 正義
- 腐敗との闘い
- 経済の廉潔性
- 独立
- 自由
- 精神性
- 倫理
- 生活様式
- 殉教
- 尊厳
- 叡智
- 公益にかなう判断
- 逆方向の翻訳運動
- ウンマ（信徒共同体）
- 世界の被抑圧者
- 学業、魂の修養、スポーツ
- イスラームと革命のアイデンティティ
- イスラームとイランのアイデンティティ
- イスラームとイランに基づく進歩のモデル、ほか

こうした深い概念を、国の諸機構、イランの民衆、さらには国外へと浸透させる36年間の努力により、イラン世界、イスラーム世界、世界の抑圧された諸民族が150年にわたり被ってきた軽視と立ち遅れは急速に克服され、回復へと向かった。その運動の成果が加速し、飛躍を遂げたことで、人間性、自由、正義の敵は、彼を殉教へと追いやる犯罪に手を染めた。神の御心ならば、新たな最高指導者であり、革命の第三代指導者であるアーヤトッラー、セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイー（アッラーが彼をお守りくださいますように）の下、この道は民衆の使命とともに、力と希望をもって理想の成果へと歩み続けるだろう。

本特別号は、この世界的指導者を悼む悲しみの葬儀に際し、世界各地から寄せられた資料を用いて編まれた。

本特別号を通じて、イラン国外の読者の皆様には、神に導かれ、民衆に親しまれたこの指導者の人格のさまざまな側面を、より深く知っていただけるだろう。また、「なぜ立ち上がるべきなのか」を支える論拠と、「世界規模の壮大な怒りと蜂起」の展望にも触れていただける。

大統領、ムジュタヒド、最高位のイスラーム学者から寄せられた哀悼の電報

イスラーム革命指導者の殉教に際して



大統領からの哀悼のメッセージ

深い悲しみと衝撃、痛惜の念をもってお伝えする。イスラーム革命の崇高で偉大な指導者、アーヤトッラー・イマーム・ハーメネイー猊下が、世界で最も凶悪な者たちの手にかかり命を落とされた。これは今日のイスラーム世界にとって最大の悲劇である。アメリカ・シオニスト勢力による、イラン・イスラーム共和国の最高位の政治指導者であり、シーア派世界の指導者かつ著名な宗教的権威の殺害は、世界各地のムスリム、とりわけシーア派に対する公然たる宣戦布告とみなされる。

親愛なるイランよ。アーヤトッラー・イマーム・ハーメネイー猊下は、37年間の賢明な指導を通じ、イマーム・ホメイニー猊下（アッラーの慈悲がありますように）の光明に満ちた道を、揺るぎない意志と威厳をもって歩み続け、傲慢な支配に抗し、独立を守る中心となった。民衆の意志、投票、意見をよりどころとして、イラン国民に名誉と尊厳をもたらした、偉大で神に導かれた指導者であり、強固な支柱のように、イスラームとイランの敵にとって目の上のたんこぶとなった。

その先見性と洞察力、

揺るぎない姿勢と抑圧への抵抗、イマーム・ホメイニーとイスラーム革命の理想への忠誠、慈愛と優しさ、知識と忍耐、誠実さと全能の神への真摯な信仰は、イマーム・ホメイニー（アッラーの慈悲がありますように）の傍らで、現代史の頂に永遠に消えることのない名を刻んだ。大アーヤトッラー、セイエド・アリー・ハーメネイーの名と地位にふさわしいものは、まさしく、イスラームの敵との闘いにおける殉教以外にはなかった。
イラン・イスラーム共和国は、この歴史的犯罪の実行者と指揮者に報復することを、自らの正当な義務であり権利であると考え、この重大な責任と義務を全力で果たす。
私は、イスラームのウンマ、気高いイラン国民、そしてこの永遠の指導者に心を寄せ、従うすべての人々に、改めて哀悼の意を表する。同時に、この歴史上の偉人の道を歩み続けるという、固い決意と揺るぎない意志を強調する。イスラーム革命の崇高な理想を実現し、社会に正義と自由を広める道において、イランの公職者と気高い国民の共感と連帯が一層深まり、実を結ぶよう、全能の神に祈る。



アーヤトッラー・シースターニー猊下

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
「まことに、私たちはアッラーに属し、かれのもとへ帰るのです。」
イスラーム共和国の最高指導者、アーヤトッラー・ハーメネイー猊下（アッラーの御満悦がありますように）の殉教に際し、敬愛するイラン国民と世界のすべてのムスリムに、深い悲しみとともに哀悼の意を表する。
この偉大な指導者の高い地位と、長年にわたりイスラーム共和国の体制を率いてきた独自の役割は、誰の目にも明らかである。
敵は、彼を殺害し、この国に大規模な軍事侵攻を行うことで、私たちの愛するイランに危害を加えようとしている。疑いの余地はない。この地に暮らす偉大な国民には、この困難かつ緊迫した情勢の中で国民の団結と結束を守り、侵略者の邪悪な目的の達成を許さないことが求められる。



ナーセル・マカーレム・シーラーズィー アーヤトッラー猊下のメッセージ

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
「…忍耐する者たちに吉報を伝えなさい。災難に遭ったとき、『まことに、私たちはアッラーに属し、かれのもとへ帰るのです』と言う者たちに。」（クルアーン2章155、156節）
偉大なイスラームのウンマ、この世で真理を支持する人々、そして誇り高く力強いイラン国民よ。再び不信仰の側から、人類にとって最も卑劣で執念深い敵の手が伸び、アフル・アル＝バイト（預言者の家族。彼らに平安がありますように）の教えの光明に満ちた道を歩み、世界の帝国主義との闘いを指揮してきた、革命の賢明な指導者を殉教へと追いやった。
彼は常に警戒を怠らず、勇敢であった。イスラーム革命の道を歩んだ生涯を通じ、激動する出来事や困難、真理に対する圧力の嵐にも揺るがなかった。長年の願いを遂げ、殉教者たちと殉教者のイマームのもとへ加わった。

«فَمِنْهُمْ مَنْ قَضىٰ نَحْبَهُ وَ مِنْهُمْ مَنْ يَنْتَظِر».

この喪失は極めて重い。しかし、イスラームの歴史が示すように、真理の道におけるジハードは、常に殉教者の血によって潤されてきた。こうした殉教は、名誉と尊厳、独立のために払われる代償となり、イマーム・マフディー猊下（私たちの魂が彼に捧げられますように）の到来を準備するものとなる。
この重大で運命を左右する時期に、愛するイスラーム・イランのすべての国民と世界のすべてのムスリムに向け、いくつかの要点を述べる必要があると考える。



アーヤトッラー・ジャアファル・ソブハーニー猊下のメッセージ

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
「…まことに、私たちはアッラーに属し、かれのもとへ帰るのです。」（クルアーン2章156節）
まことに、人生とは信仰とジハードにほかならない。
イラン・イスラーム共和国の指導者、アーヤトッラー・ハーメネイー猊下（その魂が清らかでありますように）の痛ましい殉教、イスラーム革命防衛隊および軍の複数の指揮官の殉教、さらに無防備な女性や子どもを含む、苦難にあえぐ同胞たちの殺害の知らせは、イスラームのウンマ、とりわけ誇り高いイラン国民の間に悲嘆の波を引き起こした。
この悲しく胸を痛める出来事に際し、イマーム・マフディー（アッラーがその祝福された到来を早めてくださいますように）、イスラームのウンマ全体、なかでも優れたウラマー、高位のムジュタヒド、そして特に敬愛する殉教者のご遺族に、哀悼の意を表する。至高の創造主に、彼らの位階が高められ、限りない神の慈悲と御満悦が与えられるよう祈る。
アーヤトッラー・ハーメネイー猊下は、「まことに、人生とは信仰とジハードにほかならない」という言葉を体現していた。青年期から、その祝福された生涯の最期に至るまで、筆と言葉、命と心をもって、イスラームの教えの解明と国家の賢明な運営に尽力した。そして、祝福されたラマダーンの月に、彼は

殉教という大いなる恵みにあずかり、祖先である信徒の長アリー(彼に平安がありますように)のもとに迎えられた。
私たちは至高の創造主に祈り、この苦難にあえぐ人々の清らかな血が流されたことを罰せずにおかれることなく、卑劣で不信心な、血に飢えた敵に報復してくださるよう求める。偉大なイラン国民に、結束と団結を守るよう呼びかける。至高の創造主がこの国と体制を守ってくださる。
皆様に平安とアッラーの慈悲、そして祝福がありますように。



アーヤトッラー・シュベイリー・ザンジャーニーのメッセージ

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
「まことに、私たちはアッラーに属し、かれのもとへ帰るのです。」
最高指導者アーヤトッラー、ハーッジ・セイエド・アリー・ハーメネイー(アッラーの御満悦がありますように)の殉教に際し、宗教学校、聖なる家、忍耐強く忠実なイラン国民、そして世界のすべてのムスリムに、深い共感とともに哀悼の意を表する。
革命の創始者の教えを学んだ傑出した学識ある弟子として、この偉人はその道を信じ、困難を前にためらうことなく、揺るぎない信仰、強い意志、自己犠牲をもって、かけがえのない生涯をこの道に捧げた。
尊厳と威厳、模範的な勤勉さも備えていた。このムジャーヒドが果たした貴重な奉仕が、アッラーの御心により、来世での宝となるよう願う。

今、女性や子ども、無辜の人々の血で汚れた手を持つ邪悪な敵が、イスラームの祖国を残忍に侵し、罪なき人々の血を流している。この国土は、歴史の中で幾度もの盛衰を経験してきた。この地で、真正なイスラームの教えと、それを信仰する人々を守り続けてきたのは、無謬なるアフル・アル=バイト(彼らに平安がありますように)の配慮と庇護、民衆の自覚、神への信頼、そして宗教上の義務の遂行であった。
この危機的な状況において、無謬で清らかなアフル・アル=バイト(彼らに平安がありますように)への愛で心を結ぶ気高いイラン国民には、考え方の違いや過去の出来事への悲しみがあっても、かつてないほど団結を守り、強めることが求められる。慈愛と共感をもって、無謬なる方々(彼らに平安がありますように)の教えを第一に置き、社会のあらゆる分極化を避け、安全と平穏の維持に努めてほしい。公職者とすべての関係者も、神に信頼し、先を見通し、綿密に計画し、諸機関を適切に統括しながら、自らの義務を果たし、誠実に人々に奉仕することで、困難を乗り越え、イスラームの敵の陰謀を無力化しなければならない。
聖なるラマダーンのこの日々と夜々に、すべての信徒に、全能の神への祈りと語らい、無謬なるイマームたち(彼らに平安がありますように)への庇護の求めを勧める。特に時代のイマームの聖なる廟で助けを求めてほしい。アッラーがその帰還を早めてくださいますように。
最近の出来事で悲しむご遺族に哀悼の意を表し、被災者や負傷者の健康を祈り、願いつつ、全能の神にすがり、助けを求める。慈悲あまねく慈愛深き御方のウンマの、約束された帰還が早まりますように(私たちの

魂が、私たちの罪のために捧げられますように)。正義と公平が確立され、人類の苦しみが終わることを願う。



アーヤトッラー・ヌーリー・ハマダーニーのメッセージ

アーヤトッラー・ヌーリー・ハマダーニーは、イランのイスラーム革命指導者の殉教に際してメッセージを発表した。

「シャファクナ」によれば、その全文は次のとおりである。

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

「信徒の中には、アッラーに約束したことを果たした者がいる。その中にはすでに果たした者も、待っている者もおり、彼らが取り替えたものは、その置き換えである。」イランのイスラーム革命の賢明で勇敢な指導者アーヤトッラー・ハーメネイー(アッラーの御満悦がありますように)の殉教は、誠実さ、闘い、奉仕に満ちた生涯への報いであった。全能の神が、彼の生涯にわたる願いと、祈りの中で絶えず求め続けたことに応えて与えられたのである。

亡きイマーム(アッラーの慈悲がありますように)の後、ほぼ40年にわたり指導に当たった彼は、その追随者たちと同様、神以外の誰かのために行動し、決断し、言葉を発することは決してなかった。

知識と実践、敬虔さと勇気に秀で、危険な時にも国民から離れることはなかった。

疑いなく、アメリカと、犯罪的で血に飢えたシオニストは、その道の終わりに近づいている。今回は強力な軍が、断固として忘れがたい応答を返すだろう。この特別な状況の下、偉大なイラン国民と自由のために闘うすべての人々は、敵への聖なる怒りを保ちながら、団結と連帯の維持に心を配り、いかなる対立も避けなければならない。敵の計画を挫くためには、現場に立ち、あらゆる層の人々を結集することが必要であり、重要である。そして神の御心ならば、国民の専門家たちも歴史的な義務を果たし、革命の道が力強く続くことを敵は知るだろう。

このイスラーム世界の偉大な指導者の殉教に際し、時代のイマーム(アッラーがその到来を早めてくださいますように)、イスラームのウンマ、そして世界のすべての自由を愛する人々に、祝意と哀悼の意を表する。



アーヤトッラー・ファイヤーズィーのメッセージ

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

まことに、私たちはアッラーに属し、かれのもとへ帰るのです。

イスラームとムスリムの敵の手によって、イラン・イスラーム共和国の指導者アーヤトッラー・ハーメネイーが殉教したとの知らせに、私は深く衝撃を受けた。

彼は、賢明で慈愛に満ちた指導者として、

長年にわたり、イラン国民とムスリムを導いてきた。時代のイマーム、世界の学者たち、気高いイラン国民、そしてこの偉大な故人を愛した方々に、哀悼の意を表する。この偉人に慈悲と赦しが与えられ、清らかな祖先たちと再会できるよう、全能のアッラーに祈る。また、彼のすべての近親者、特に敬愛するご家族と気高いご子息に、忍耐と大いなる報いが与えられるよう、全能のアッラーに祈る。
至高にして偉大なるアッラーのほかに、力も威力もない。



アーヤトッラー・ヴァヒード・ホラーサーニー

シャファクナ:イスラーム革命指導者アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に際し、アーヤトッラー・ヴァヒード・ホラーサーニーの事務所が、この宗教的権威の哀悼の意を伝えた。
「シャファクナ」によれば、アーヤトッラー・ヴァヒード・ホラーサーニーの長男は、ゴムにある革命指導者事務所の責任者、ホッジャトルイスラーム・ワルムスリミーン、モハンマディー・イラーキーと電話で話し、この宗教的権威からの哀悼と深い共感のメッセージを、故人の近親者、特にご家族に伝えた。彼は、故人がこの月の主であるアミール・アル=ムウミニーン(信徒の長。彼に平安がありますように)と再会し、残された人々が忍耐を示して大いなる報いを得られるよう祈った。



殉教した指導者の葬儀: 現代世界史の重大な節目

モハンマド・マフディー・イーマーニープール

イスラーム文化・交流機構
長官



4か月を経て、誇り高いイラン国民と世界の自由な諸民族は、亡き殉教した指導者、大アーヤトッラー・イマーム・ハーメネイー(アッラーの慈悲がありますように)の葬儀に備えている。民族の歴史には、日常の出来事を超える瞬間がある。現在だけでなく、人類の歴史的記憶をも形作る瞬間である。こうした瞬間は、社会の集団的な感情、共有する懸念、深い理想を映し出し、揺るぎない対話の形成へとつながることが多い。イマーム・ハーメネイー(アッラーの慈悲がありますように)の聖なる遺体の葬儀も、その一つである。一見、偉大な指導者との別れの式に見えるが、実際には、まだ十分に知られていない思想を広める出発点であり、新たな成長の機会である。多くの機会は脅威から、また多くの力は喪失から生まれる、と言われるのも理由のないことではない。

それゆえ、イマーム・ホメイニーの逝去37周年に、イスラーム革命の最高指導者は次のように述べた。「今、偉大なホメイニーと、敬愛する殉教者ハーメネイーの教えを、抑圧されながらも力強く、そして勝利するイスラーム革命の指導者の教えとして、世界に示し、実践の中で体現する新たな機会が生まれた。」

殉教者イマーム・ハーメネイーの葬儀は、清められた遺体が通りや広場を進む行列にとどまらない。民族の歴史と文明が一つに集まり、現代世界史の頂点を形作る場なのである。その節目は、異なる考えを持つ、さまざまな国籍や世代の人々を結び、諸民族の間に深いつながりを生み出す。

この幅広く意義深い参加は、殉教したイスラーム革命指導者が、単なる政治的・社会的人物ではないことを示す。彼は深い思想、雄弁な言葉、新たな知的地平を担い、それは追随者や敬愛する人々、自由と独立を求める人々の心に根を下ろしている。祝福された生涯の最期まで、敵の圧迫に屈しなかった亡き勇敢な指導者の葬儀は、信仰と精神性の力を示すものである。「力」が富の蓄積、強硬な権力、政治的な駆け引きによって定義されがちな世界で、この式典は、より深い真理を思い起こさせる。精神的な力は軍事的、経済的、政治的な力を超え、信仰と精神性には今なお、心を一つにし、人類の大きな運動を生み、さらには世界的な覚醒を起こす力があるという真理である。この大規模な集いは、賢明な亡き指導者との別れであるとともに、その言葉と行動に繰り返し表れた価値が、今も生きていることの証しでもある。

イランのイスラーム革命の賢明で勇敢な指導者は、イスラーム共和国の創始者イマーム・ホメイニー(アッラーの慈悲がありますように)の逝去後、運動を率いた。36年間の指導を通じて地域と世界に抵抗の体系が形成され、世界の自由な諸民族は、虚偽の陣営の敗北と絶望の兆しを幾度も目にした。新たなイスラーム文明を築こうとした彼の歩みは、あらゆる国、民族、宗教の自由を求める人々を、抑圧と専制の束縛からの解放へと導こうとする、この殉教者イマームの固い決意を示している。

イスラーム革命の殉教した指導者の聖なる遺体の葬儀と、別れの式で私たちが目にする唯一無二の壮大な出来事は、疑いなく、無数の友人や追随者たちの覚醒と責任感をさらに促し、真理と名誉の道の殉教者の知的、精神的、文明的な遺産を世界に広めるだろう。世界の自由な人々の指導者の殉教を記念するムハッラムの日々に、この式典が行われることは、血が剣に勝ち、真理が虚偽に勝つことを、改めて思い起こさせる。

殉教者イマーム・ハーメネイー(アッラーの慈悲がありますように)の葬儀は、その理想を考え直し、未来への道を定め直す、前例のない機会となるだろう。こうした時、若い世代は重大な問いに直面する。変革をもたらし、未来を築く力を持つ指導者が切り開いた道を、どう歩み続けられるのか。その答えを求めることが、徐々に新たな思想的・文化的潮流を生む。思想が花開き、議論が深まり、社会に新たな地平が開かれる。亡きイスラーム革命指導者は、米国や欧州の若者を含む世界の若者に幾度も語りかけ、精神性を備え、覇権に抗する新たな秩序への移行のモデルを示した。今こそ、この道筋に沿って行動する時である。

異なる文化や言語を持つ人々が精神的な人物を中心に集まると、その参加のメッセージは地理的な境界を越えて届く。世界は、この巨大な集いの背後に、単純な力の尺度では説明できない特別な意味があることを理解する。ここで追悼の式典は、文明のメッセージとなる。この出来事が伝えるのは、イマーム・ハーメネイー(アッラーの慈悲がありますように)の深く根づいた思想が生き続け、

新たな世界秩序と新たなイスラーム文明を築く道筋となるということである。同時に、大学、文化センター、社会機関、さらには民間の活動家も、この思想を継承し、発展させる基盤となり得る。革命の殉教した指導者の聖なる遺体の葬儀は、単なる追悼の式ではなく、彼と、その高潔な後継者アーヤトッラー、セイエド・モジュタバー・ハーメネイー(アッラーの慈悲がありますように)への誓約を新たにする出発点でもある。若く、賢明で自覚あるその指導は、殉教者イマームの思想を、イラン、地域、世界で語り、導くことになる。イスラーム革命の第三のイマームは、先見性に富む偉大な父と同様、より公正で、人間的で、精神性に満ちた世界をどう築くかに心を砕いている。殉教した指導者が示した偉大な理想が、生き続ける世界である。

最終的に、イスラーム革命の殉教した指導者の葬儀は、彼が残した教えと価値が国民の心にどれほど根づいているかを、民族が示す歴史的な出来事となるだろう。こうした深い根こそが、新たな運動、新たな思想、そして新たな文明的地平の形成への道を切り開く。歴史は、まさにこのような瞬間から新たな道を開く。悲しみは自覚へ、敬意は責任へ、記憶は未来を築く原動力へと変わる。この壮大な式典は、人類の思考と心、そして未来の運動の中で続く道の始まりなのである。

神の御心ならば。





全能の神の御名において

アリー・アッバースィー博士の論考

殉教者イマーム
セイエド・アリー・ハーメネイーの
葬儀に寄せて

ムスタファ協会会長、
イスラーム文化・交流機構
最高評議会委員



イマーム・ホメイニー(アッラーがその魂を聖なるものとしてくださいますように)の指導の下、祝福されたイスラーム革命が勝利してから今日まで、イラン・イスラーム共和国は、戦争や侵略を始めたことも、他者への攻撃において侵略者や仕掛ける側となったこともない。むしろ私たちは、真の平和、揺るぎない安全、全面的な安定の実現に向けて、常に歩みを進めようとしてきた。愛する祖国のためだけでなく、地域全体と世界全体のために。

私たちの姿勢は、当初から明確で一貫していた。平和と安全を支持し、対話と相互理解を信じ、相互尊重、正義、公平を基に、諸民族や国家の間に協力の橋を架けようとしてきた。他者の支配を求めず、他国の土地を欲せず、誰かに自らの意志を力で押しつけようとしたこともない。私たちの唯一の願いは、尊厳と自由をもって生き、より公正で平和な世界の建設に加わることだった。

しかし、この高潔な原則と平和を求める姿勢が、愛する祖国、国家の主権、宗教と聖地、さらには地域や世界の友人や同盟者への、いかなる侵略や攻撃にも断固として応じることを妨げたことはない。自衛は正当で聖なる権利であり、平和は降伏、弱さ、抑圧や侵略の受け入れを意味しない。

私たちは平和を愛する民族であるが、同時に、屈辱と侮辱を受け入れない。必要が生じれば、ためらうことなく自分たちと、その権利、尊厳を守る。ここに私たちの均衡がある。平和と力、叡智と勇気、そして、いかなる状況でも後退しない原則への忠実さである。

誇り高い私たちの民族は、たとえ命を犠牲にする道であっても、抑圧者に屈することはない。殉教者セイエド・イマーム・ハーメネイーは、まさにその道を歩んだ。人間的かつイスラーム的な原則から一瞬たりとも退かず、抑圧や反乱に抗し、真理の言葉を高める闘いにおいて揺るがなかった。

殉教者イマームは、境界や違いを超え、あらゆる宗教、民族集団、信条を広く理解し、いかなる差別や区別もなく、人々の幸福と福祉を常に、たゆみなく求めた。人類の幸せ、安らぎ、幸福の実現に、自らの力、資源、時間のすべてを注いだ。

人間の真の幸福と完全な自由は、抑圧的な支配者の支配と、専制や反乱の束縛から解放されることでのみ可能になると、彼は固く信じていた。抑圧と搾取の鎖につながれたままでは、人は尊厳ある生を営み、才能や理想を育むことができないからである。

それゆえ彼は、イスラームの民族には、傲慢な者や抑圧者に勇敢かつ揺るぎなく対抗し、自由、人間の尊厳、完全な独立の実現に向けて団結し、声を一つにする、聖なる義務と歴史的責任があると考えた。屈辱を耐え忍ぶ民族は進歩せず、抑圧に屈する人々は明るい未来を築くことができない。

科学、経済、社会、文化の各分野で真の自由と独立を求めることも、この殉教者の最も重要な優先事項の一つだった。真の独立は標語によってではなく、あらゆる重要分野での努力、建設、真剣な仕事の成果によって実現すると、彼は考えていた。

だからこそ彼は、科学者や研究者に、知識の習得、革新、創造、そして社会に奉仕する能力の向上を促した。また若者には、努力し、粘り強さを示し、より良い未来を築くために自らの能力を用いるよう、常に呼びかけ、絶望や他者への依存を戒めた。若者を民族の資産と希望、学者を進歩の灯台と道しるべと考えていた。

この殉教した指導者は、民族にとって、まさしく優しく慈愛に満ちた父だった。愛と慈悲で満たされた心で、この民族の子どもたちを抱きしめ、誠実で自由な生を歩む彼らの夢と願いの実現に尽力した。単なる指導者や助言者ではなく、国民の痛みと喜びを感じ、その利益と未来を何よりも大切にする精神的な父だった。

彼は、この尊い節を身をもって示していた。「信徒の中には、神との誓約を守り続けた者たちがいる。ある者はその誓約を果たして殉教し、ある者は待ち続け、その誓約を決して変えることはなかった。」

祝福された生涯のあらゆる瞬間に、彼は神への誠実さと神聖な誓約への忠実さの模範だった。原則と価値において揺るがず、困難や出来事が真理の道から彼を逸らすことはなかった。神の助けを忍耐強く待ちながら、気高い生涯を送った。それは努力と闘いを伴う能動的な待望であり、受け身や無為ではなかった。神の約束と助けを確信し、善の種をまき、希望と忍耐をもって育てた。

しかし、神の意志と叡智は、その祝福された生涯が、真の信徒の誰もが求める最善の結末、すなわち神の道における殉教で終わることを定めていた。こうして彼は、最も高い位階と地位に達し、殉教の状態で神にまみえるという長年の願いを遂げた。その殉教は、ジハード、闘争、奉仕に捧げた生涯の頂点となり、その意図の真摯さ、行動の誠実さ、神聖な誓約への忠実さの証しとされる。





イスラーム革命の最高指導者が語る、殉教したイスラーム革命指導者の特質

アーヤトッラー セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイー

アッラーの御名において

アーヤトッラー、セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイー猊下の最初のメッセージ
番号 特質 革命指導者による説明
1 この世のはかない恩恵に抗し、克服すること。この地位には豊かな歴史がある。60年以上にわたり神を求め、あらゆる享楽や安逸を捨てた人物が、その地位にあった。彼は、現代のみならず、この国の歴代統治者の歴史全体においても、真の宝玉、傑出した存在となった。
2 真理をよりどころとすること。その生涯も最期のあり方も、真理をよりどころとすることで生まれる栄光と尊厳に満ちていた。
生涯の最期まで敵に対峙すること。殉教後、私はその遺体を訪れる栄誉にあずかった。信じがたい精神の強さを目にした。そして、傷を負っていない手が拳を握っていたと聞いた。
3 生活のあらゆる領域への国民の参加と、民主主義の理念の実現。殉教した指導者と、その偉大な前任者の力量の一つは、あらゆる領域に国民を参加させ、絶えず知識と理解を与え、実践においてその力に頼ることだった。こうして彼は、共和国と共和主義の真の意味を実現し、それを心から信じていた。その明確な成果は、国が指導者と最高司令官を欠いた、あの数日間に見られた。
4 殉教への願い。あなたは常にこの結末を求めていた。ついにラマダーン10日目の朝、聖クルアーンを読誦していた時、アッラーがそれを授けられた。
5 侮辱や冒瀆に対する忍耐と寛容。あなたは、数々の不正を力強く、忍耐をもって耐え抜き、揺らぐことはなかった。
6 イラン国民と抵抗戦線を構成するすべての民族の発展を、深く重視したこと。あなたが義人、殉教者、聖者のすぐ近くにあって、この世でそうしたように、この民族と抵抗戦線のすべての民族の進歩を思い続け、彼らのために執り成してくださることを願う。

1405年の到来に際しての、アーヤトッラー、セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイー猊下のメッセージ
番号 特質 革命指導者による説明
1 経済への継続的な関心。殉教した指導者(その地位が高められますように)は、さまざまな年に、主要な関心とその年の標語を経済に向けた。
2 同じ信仰を持つ隣人の状況への共感と配慮。パキスタンが亡き指導者にとって特別な土地であったことを、私は以前から知っていた。その例が、同じ信仰を持つ人々の命を脅かした破壊的な洪水に際して、祈りの





説教の中で語った、感情のこもった言葉である。

レバノンの「ヒズボラ」の書記長、シェイフ・ナイーム・カーシムからの哀悼と忠誠の誓いのメッセージに対する、革命指導者の返答
番号 特質 革命指導者による説明
1 イスラーム世界の最も執拗な敵に対する、粘り強さ、不屈の精神、忍耐、たゆまぬ抵抗。疑いなく、アメリカと、地域におけるその傀儡勢力である残忍なシオニスト体制、すなわちイスラーム世界の最も執拗な敵を前にした不屈の姿勢、抵抗、忍耐は、殉教者イマームの最も際立った特質の一つだった。この抵抗と揺るぎない姿勢は、偉大な指導者の長年の統治を通じて保たれた。ハーッジ・カーセム・ソレイマーニーや、イスラーム革命防衛隊および軍の高位の指揮官など、貴重な殉教者たちの犠牲は、この道の正しさを示す最大の証しである。
2 シオニスト・アメリカの敵に対する抵抗戦線の支援。改めて断言する。亡きイマームと殉教した指導者の道を継ぐイラン・イスラーム共和国の一貫した政策は、シオニスト・アメリカの敵への抵抗を、絶えず支援することに基づく。

アーヤトッラー、セイエド・モジュタバー・ハーメネイーの、革命の偉大な指導者の殉教40周年に際してのメッセージ(アッラーの御満悦がありますように)、および第三次の強いられた戦争に関する重要な問題について
番号 特質 革命指導者による説明
1 法学、時代認識、洞察、努力、知識の実践、誠実な奉仕、神の約束への信仰。殉教した指導者が、その時代を知り、洞察力を備えた法学者であり、疲れを知らぬ闘士、山のように不動で堅固な存在、実践する宗教学者であったことは、誰もが知っている。神を想起し、祈り、主に願い、無謬なる方々の聖なる魂に庇護を求める人でもあった。彼らすべてに神の祈りと平安がありますように。そして心の底から神の約束を信じていた。
2 革命の主要な要素である、イランへの愛と国民への配慮。愛するイランの独立をより強めるためのたゆまぬ努力と、世界の結束や国民の団結を重視する姿勢も、彼の特質だった。イスラーム体制の構築と安定、存続に生涯を捧げながら、国民のいないイスラーム共和国は無意味だと考えていた。
3 思考と物事への姿勢の繊細さ。力と強さを備えながら、思考や物事への取り組みには優美さもあった。
4 若者と国の科学的進歩への配慮。国の可能性、特に若者の可能性に、特別な関心を払っていた。科学と技術、それに伴う進歩を、高く評価した。
5 殉教者の家族と退役軍人への献身。殉教者、退役軍人、戦没者のご家族に、特別な敬意を抱いていた。



6 芸術の歴史と芸術教育。今日、一部のメディアは、彼の芸術、芸術教育、著作について頻繁に語っている。この側面は、それ自体で人物の価値を大きく高め得るものであり、敬愛する指導者も確かに豊かに備えていた。しかし、その生涯の他の要素や優れた点と比べると、小さなものに思われる。私は個人的に、彼の作品の多くを知っている。

7 教育と共同体の発展の技。一つの偉大な技でありながら、あまり注目されていないのが、幅広い民衆や社会集団の思考、精神、感情を形作ることで、社会を啓発し、育てる技である。

8 目的を持った制度構築の技。そのもう一つの技は、目的を持って諸機関を設立することだった。特に指導の初期に、長期的な展望を見据えてこれに取り組んだ。

9 国の軍事体制を強化する技。国の軍事体制を強めることも、その力量の一つだった。イラン国民は、最近の二度の強いられた戦争で、その好ましい成果を実感し、恩恵を受けた。

10 さまざまな分野での革新と創造の技。また、科学、戦略、政治を含む多様な領域で革新や新たな取り組みを生み出す力も、彼の才能の一つだった。それは体制の基本政策の策定に表れている。

11 新たな意味と社会的言説を生み出す力。さらに、意味を創造する能力があった。それは、



時機にかなった言葉や新たな組み合わせを作り、それぞれに多くの意味を生み、込めることで、公共の言説を形作るものだった。
12 遠い出来事を予見する技。その中には、困難、試練、苦難、そして真理の道での忍耐と粘り強さを通じて、高潔な精神が磨かれた結果、得られた技がある。神の光の中で信徒が見る、遠い出来事を予見する技である。
13 真理の言葉を高めるための、たゆまぬ努力と闘い。これらの技と優れた点はすべて、神の特別な慈悲と、私たちの導き手およびその清らかな祖先たちの特別な配慮以外に、源を持たなかった。彼らすべてに神の祝福がありますように。この偉人にそうした恵みと配慮をもたらしたものは、おそらく、真理の言葉を高めるための、疲れを知らぬ誠実な努力と闘いに集約できるだろう。

しかし、背信的なパフラヴィー体制との闘いの困難に加え、一般にはあまり知られていない、もう一つの特別な機会も、彼に大きな恩恵をもたらした。運命は次のように定めていた。学び、そしてもちろん実践を強く求める若いセイエドは、尊敬する父が失明の危機にあった時、高位の教師たちのもとで長年学んだ後、ゴムにおける学問上の発展と将来への、目に見えるあらゆる可能性を捨て、神の慈悲に信頼して父に尽くした。この犠牲の後、神の慈悲は、セイエド・アリー・ハーメネイーが

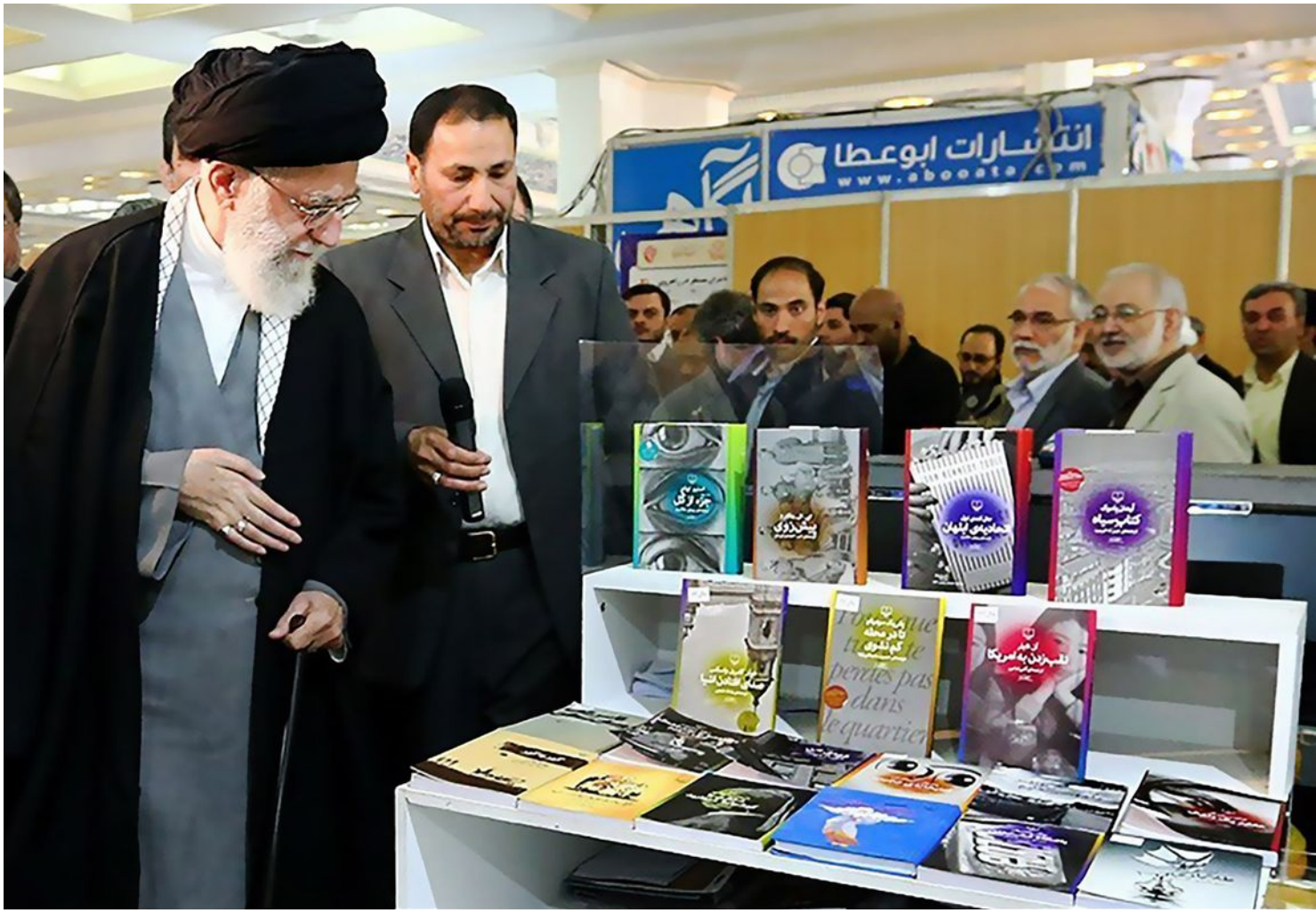
30歳になる前に、ホラーサーンから太陽のように現れ、ほどなく思想と闘争の柱の一人とみなされるようになるという形で示された。同時に、伝統的な学問でも大きな成果を上げた。50年代には、サーヴァークが彼を「ホラーサーンのホメイニー」と呼ぶほどであった。専制に抗する精神と、尊敬する父に誠実に仕えるための自己犠牲と献身の精神を備えていた。14
尊敬するイマームの具体的な行動の基礎は、徐々に広く伝わっている。その一つとして、愛する国民は、殉教の時に握り締められていたイマームの拳から教訓を得た。今、その拳は、一部の人々にとって、共通の信念を示す象徴のようなものとなっている。ここでも、殉教者の影響は一個人の影響を超えることが証明される。一神教を呼びかけ、正義を求め、抑圧と腐敗に抗するその高い声は、生前よりも大きく響き、メッセージも深まった。すべての国民にとって、抵抗、粘り強さ、共通の信念への信仰の模範となること。15

一部の国民層からの度重なる訴えに関する、革命最高指導者事務所の声明
番号 特質 革命指導者による説明
1 イラン国民すべてへの愛情と親しみ、そして敵の虚偽の宣伝に由来する侮辱への忍耐と寛容。生前、同様の事例に対して、「すべてのイラン国民は私の子どもたちであり、私は彼らのために祈っている。私はこの愛する人々を赦してきたし、今後も赦し続ける」と、繰り返し答えていたことを踏まえ、私たちは宣言する。これらの愛する人々は皆、安らかな心でいてほしい。大海のようにすべての人を包み込んだ、あの慈愛に満ちた心による赦しの対象なのだから。

ファルヴァルディーン月29日、イラン・イスラーム共和国軍の創設記念日に際しての、最高司令官のメッセージ
番号 特質 革命指導者による説明
1 多様な方向で軍事力を維持し、強化する実践と努力。他方、ファルヴァルディーン月29日は、この時代に比類なき偉大な殉教した指導者の誕生日でもある。革命の最初の10年間から、軍の解体を求める不吉な声に抗してその維持に最大限の努力を払い、その後、さまざまな方向で能力の向上に尽力した人物である。

ペルシャ語の日と、フェルドウスィーを記念する、革命指導者のメッセージ
革命指導者による説明 特質 番号
ペルシャ語と文学は、イスラームのイランの豊かな文化と文明を、世界に広める最も重要な手段の一つである。賢明な殉教した最高指導者による、ペルシャ語を強めるようにとの勧めは、「イラン・イスラーム文明」の力を示す灯台である。文明を形作る要素としての、ペルシャ語と文学という概念への配慮。1

人口問題に取り組む民間活動家の一団からの手紙に対する、革命指導者の返答
革命指導者による説明 特質 番号
これは、偉大で栄光ある殉教した指導者が



取り上げてきた、最も重要な問題の一つだった。会合や集会、公的な場や私的な場で繰り返し強調し、今なお体制の最も重要な戦略的課題の一つとされる。人口問題と、その増加の必要性への配慮。1

殉教者ライースィーの殉教2周年と、奉仕の殉教者を追悼する、革命指導者のメッセージ

革命指導者による説明 特質 番号
モタッハリー、ベヘシュティー、ラジャーイー、バーホナルから、ライースィー、アル=ハーシェム、アミール=アブドッラーヒヤーン、ラーリージャーニーまで、偉大なホメイニーと敬愛する崇高なハーメネイーの教えを学んだ、数百の優れた学識ある人物が、血の署名によって、イスラーム共和国の誠実で勤勉な奉仕者の職務を飾った。殉教者と傑出した国民的人物の育成。1

イード・アル=ガディールの祝祭、イマーム・ホメイニーの逝去37周年、そしてアーヤトッラー、セイエド・アリー・ハーメネイー猊下の指導開始の記念日に際しての、革命指導者のメッセージ
革命指導者による説明 特質 番号
これらの日の最初は6月14日である。国民の慈愛に満ちた父であり、イマームの忠実な弟子であり友、イスラーム革命の偉大で栄光ある殉教者アーヤトッラー、セイエド・アリー・ハーメネイー猊下が、神の宴に迎えられた日である。力強い声と、賢明で洞察に満ちた言葉の響きは、イマームの聖なる廟では、もう聞かれない。しかし、イスラーム共和国の創始者の言葉と著作の集成、そして偉大で栄光ある殉教者の36年間の生涯は



私たちすべてにとって、かけがえのない貴重な宝であり、未来へ進む道を照らす灯台である。イランの将来の歩みに関する、叡智に満ちた言葉と指針。1

イラン国民を包み込み、鼓舞した最も重要な運動は、偉大なホメイニーと、偉大で栄光ある殉教者ハーメネイーの時代に、彼らの直接的、あるいは間接的な指導の下で起こったのではないか。

広く人々が参加する運動の実現へ、イラン国民を導き、鼓舞する。2

障壁と抑圧、西側への全面的な依存が支配していた1963年6月15日、傲慢な勢力と植民地主義に惑わされ、眠っていた国民を目覚めさせることができたのは、どのような強大な力だったのか。1978年2月12日、国民のイマームを迎えるため、何百万人もの人々を街頭に集めたのは、どのような求心力だったのか。





また、1989年6月14日、彼を見送るために人々を集めたのは何だったのか。そして、驚くべき最新の例では、1965年2月10日の夜明けにイラン国民を戦いの場へと立ち上がらせた、あの強大な力と鋼の意志とは何だったのか。高い志に突き動かされ、3か月以上が過ぎた今も、彼らはその場にとどまっている。殉教した指導者と、血に染まって眠る他の殉教者たちの血に報復し、イスラーム体制と愛する祖国の尊厳を守ろうとしている。殉教した指導者の理想の実現、真理の確立、アッラーのための決起に命を捧げる、数千万人の隊列を強めようとしているのである。そう、愛するイランにこの潜在力と備えを見いだし、よみがえらせ、常に特別な敬意を払ってきたのは、偉大なホメイニーと栄光ある殉教者ハーメネイーだった。イラン国民の潜在力をよみがえらせ、

イランとイスラームの価値を維持し、守り、殉教者のために報復するという、その存在に根ざした備えをよみがえらせる。3

そしてもちろん、こうした影響力のもう一つの例は、敬愛するハーメネイー自身である。彼は正しき先人の道を歩み、ほぼ40年にわたり革命とイスラーム体制を指導した。若者を信頼し、人々の理解と世界観を深め、高め、社会の備えを育てた。その結果、彼の殉教という大きな出来事の後、イラン国民の使命を担う新たな体制が整ったのである。イマーム・ホメイニー(彼にアッラーの慈悲がありますように)の正しい道を歩み、若者を重んじ、人々の視野を深める。4

イマーム(彼にアッラーの慈悲がありますように)は、イラン、イスラームのウンマ、そして世界全体における、偉大で歴史的な変革を生み出した。



最高指導者であり、殉教者であり、最高の権威であった彼は、その変革を深め、広げ、継承した。その発展と実現のために体系化し、世界各地へ広めた。この点で彼は、言葉と筆と行動、また数多くの会合を通じてイマームの思想を生き続けさせただけでなく、ホルダード月14日を、国が毎年イマーム・ホメイニーとの誓いを新たにする機会とした。そして、イマームの思想の原則、方針、指針をまとめ、説明を重ねていった。亡きイマーム(彼にアッラーの慈悲がありますように)の理想を深め、広げるための体系化と社会への浸透。5

繰り返し説かれた教えには、イラン国民は信仰に篤く、理性的で勇敢な国民であるということ、人々こそが国の真の持ち主であり、その力の源であるということ、国民は自らが目指す正しい変革をすべて実現できるということがあった。また、「私たちにはできる」という標語を、さまざまな分野で実感できるものにすることも説かれた。イラン国民の自信をよみがえらせる。6

ほかにも、抑圧された人々を支援することは、イスラーム、人道、イランの立場からの義務であると説いた。また、アメリカを先頭に立つ支配体制が敵視しているのは、この国民と、その卓越したアイデンティティー、そして屈服しない姿勢であると説いた。抑圧と闘い、抑圧された人々を支援する精神をよみがえらせ、アメリカによるイラン国民への根本的な敵意を説明する。7

殉教した指導者に対するイマーム・ホメイニーの見解

故アーヤトッラー・ハーシェミー・ラフサンジャーニーの言葉。「イマーム・ホメイニーは、公の会合で、そして一度は個人的な場で、ハーメネイー氏こそイスラーム革命の指導に最もふさわしい人物だと私に話されました。」
三権の長、首相(ムーサヴィー)、ハーッジ・アフマド・アーガーが参加する会合で、イマームを前に議論が行われた。私たちは、万一、閣下に何かあった場合、指導部に空白が生じるおそれについて話した。イマームは「指導の空白は生じません。あなた方には人材がいます」と言われた。私が「誰ですか」と尋ねると、ハーメネイー氏がいる前で、「そのハーメネイー氏です」と答えられた。

イスラーム革命の創始者は、生前、彼(殉教者アーヤトッラー・ハーメネイー)を幾度も評価し、イスラーム共和国を支える有能な一員、その輝く太陽と呼んだ。「私は革命のはるか以前から閣下と親しい関係にあり、その関係は...アッラーに感謝することに、今日まで続いています。私は閣下を、イスラーム共和国を支える有能な一員、



また、法学上の問題を熟知してそれに尽くし、法学者の権利の全面的な擁護に関する法的原則を揺るぎなく支持する兄弟と考えています。イスラームとその原則を信じる友人たちの中でも、あなたは太陽のように輝く、数少ない人物の一人です。」アーヤトッラー・ハーメネイーの大統領就任を承認する布告に先立つ別の発言で、イマーム・ホメイニーは述べた。「全能のアッラーは、イスラームのまっすぐな道を歩み、宗教と政治に通じ、献身的で闘志ある大統領を選ぶよう、世論を導いて私たちを祝福してくださいました。敬愛するハーメネイー、あなたが戦場では軍服を、後方では宗教者の衣をまとい、抑圧された人々に奉仕していることを祝福します。イスラームとムスリムへの奉仕を続けられるよう、全能のアッラーにあなたの健康を祈ります。彼は...聖クルアーンの言葉によれば、不信仰者を強く支持し、その間で慈悲深い人でした。」

故ホッジャトル・イスラーム、ハーッジ・セイエド・アフマド・ホメイニーは語る。「アーヤトッラー・ハーメネイーが(北)朝鮮を訪問していたとき、イマームはその訪問のテレビ報道をご覧になっていました。『朝鮮』での訪問、人々の歓迎、演説や交渉は、とても興味深いものでした。イマームは、彼は指導者にまことにふさわしいと言われました。」

イマームの息子は、アーヤトッラー・ハーメネイーにこうも語った。「イマームは、閣下をムスリムの学者、指導に最もふさわしい人物として、繰り返し挙げられました。あなたが選ばれたことは、ふさわしく、神の御心に大いにかなうものであり、世界中でイスラームとイスラーム革命を愛する人々に喜びをもたらしました。閣下はイランのイスラーム革命の輝かしい人物の一人であり、私たちの敬愛するイマームから常に評価と敬意を受けていました。」

イマーム(彼にアッラーの慈悲がありますように)の娘、ザフラー・モスタファヴィー氏も述べた。「私はイマームに、後継の指導者について直接尋ねました。イマームはアーヤトッラー・ハーメネイーを挙げられました。指導には権威と知識という資質が必要なのではないかと尋ねると、そうではないと答えられました。私が彼の学問的な資格について尋ねると、最高指導者に必要なイジュティハードを備えていると、はっきり言われました。」

1360年(1981年)の暗殺未遂事件の後、イマーム・ホメイニー(彼にアッラーの慈悲がありますように)が革命の殉教者に送った書簡の一部

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において
ホッジャトル・イスラーム、ハーッジ・セイエド・アリー・ハーメネイー氏へ(長寿でありますように)

イスラームの敵として、愚かな集団と個人を選ばれた全能の神をたたえます。そして、栄光あるイスラーム革命の初めから、彼らのあらゆる計画、陰謀、発言が、献身的な国民を団結させ、その絆を強めてきたことを、神に感謝します。

今、イスラームとイスラームの国への奉仕以外に何の罪もないあなた、聖なる預言者とフサイン・イブン・アリーの一族の子孫であり、戦場の献身的な戦士、ミフラーブで教え導く教師、金曜礼拝や集会で語る有能な説教師、革命の場で人々を思いやる指導者であるあなたを殺そうとしたことで、革命の敵は、その政治的思考、国民への支持、抑圧者への対抗がどの程度のものかを示しました。あなたを殺そうとしたことで、全国、さらには世界中の何百万人もの献身的な人々の心を傷つけたのです。敬愛するハーメネイー、あなたが戦場では軍服を、後方では宗教者の衣をまとって、この抑圧された国民に奉仕していることを祝福します。イスラームとムスリムへの奉仕をこれからも続けられるよう、全能の神にあなたの健康を祈ります。

最後の
息まで…



太陽暦1404年エスファンド月9日、土曜日。西暦2026年2月28日に当たるこの日、ラマダーンのさなかに行われたアメリカとシオニスト体制の攻撃により、イマーム・ハーメネイーは命を落とした。逃亡したり、不名誉な死を遂げたりした一部の王や指導者とは異なり、彼は戦いの場に立ち、義務を果たしていた。地下壕の中でも、現場から遠く離れた場所でもなかった。「地下壕に隠れていた」とする西側メディアの描写とは違っていたのである。彼らがその姿を歪めたのは、これが初めてではない。西側メディアは長年、歪んだ姿を伝えようとしてきた。しかし、彼は本当はどのような人物だったのか。

それだけではない。政治の領域を超えて、彼は教養と精神性、叡智を備えた指導者だった。東にも西にも追随せず、別の統治のあり方を世界に示した人物である。シーア派の学者であり宗教的権威として、さまざまな分野に精通していた。その講義と討論を基に、120巻を超える膨大な書籍が編まれた。パレスチナからペルシア文学、アフル・アル=バイトの政治的な生涯からイスラームの教えまで、その領域は幅広い。学問だけでなく芸術の才能もあり、詩に関心を寄せ、6編以上のガザルを詠んだ。

しかし、こうした多様な側面の中でも、際立つ一つの特質があった。抑圧と支配への抵抗である。

この抵抗は、一時的な標語ではなかった。政治と倫理の方針の土台だった。強制に抗し、屈辱を拒み、最も厳しい犠牲を払ってでも尊厳を守るということである。

同じ原則は、国外からの圧力への対応にも、パレスチナへの揺るぎない支持にも表れていた。

彼にとってパレスチナは、遠く離れた地域紛争にとどまらなかった。この時代の道徳と運命に関わる問題であり、個人、国家、国民が実際にどちらの側に立っているかを示す指標だった。抑圧された側に立つのか、それとも抑圧する側に立つのか。正義を選ぶのか、沈黙を選ぶのかを示すものである。だからこそ、イマーム・ハーメネイーによるパレスチナ支持は、単なる政治的な立場ではなかった。歴史の正しい側に立っていることの証しだった。

しかし、この精神を理解するには、その原点へ立ち戻らなければならない。

セイエド・アリー・ホセイニー・ハーメネイーは、当代の学者でムジュタヒドの一人、故ホッジャトル・イスラーム・ワル・ムスリミーン、ハーッジ・ジャヴァード・ホセイニー・ハーメネイーの息子として、1939年4月19日、聖都マシュハドに生まれた。家族の次男だった。セイエド・ジャヴァード・ハーメネイーは、多くの宗教者や学者と同じく、きわめて質素な生活を送っていた。この質素さが、幼いころから彼に困難を知らせ、勤勉で忍耐強い精神を育てた。

幼少期、初等教育を終えると、彼は禁欲的な修行の世界に入った。それは、初めから秩序、学習、知的な規律と結びついた道だった。

青年になると、イランの政治秩序を変える闘いの中心に身を置いた。この若い宗教者は、ほどなくパフラヴィー体制に対する闘争の

積極的な参加者の一人となった。闘う人々にとって迫害と圧力が日常の一部となり、運動のメッセージを伝えるために大きな代償を払わねばならない時代だった。
1962年、イマーム・ホメイニーの指導の下でイスラーム運動が始まった当初から、彼の不屈の姿勢は明らかだった。最初に闘いの場へ踏み出した人々の一人であり、15年間の活動で6度逮捕された。最後の逮捕は1974年1月で、テヘランの合同破壊活動対策委員会刑務所、すなわちサーヴァークの拷問施設に移された。本人の言葉によれば、ここで獄中生活の最もつらい日々を過ごした。
しかし、最も厳しいときにも屈しなかった。その精神を折るため、獄中でひげを剃られたが、彼は笑顔とひと言で、その屈辱の空気を破った。
「アッラーに感謝する...長い間、自分のあごを見ていなかった。見てみたら...」
投獄の後には流刑が続いた。故郷を離れた歳月だったが、闘争を離れたわけではない。流刑先でも、闘争の組織を育て、まとめ続けた。闘いの場は変わっても、道は変わらなかったのである。
革命の勝利後、彼はテヘランの金曜礼拝のイマームに任命された。その場は単なる演説の場所ではなく、社会を組織し、人々の間に運動と活力を生み出す場だった。当時から、彼が人々を引きつける指導者であることは明らかだった。今度は説教壇から人々を結集する力を発揮し、人々の心への影響力が新たな段階に入った。
1970年、サッダームのバアス党体制によるイランへの侵略が始まると、彼は戦争に身を投じた。この時期、若い宗教者だったアーヤトッラー・ハーメネイーは、現場の指揮官の役割を経験した。ムスタファー・チャムラーンらと協力し、非正規戦の仕組みを築くことに関わった。イマーム・ホメイニーの代表として作戦本部の会議に参加し、支援と兵站の調整にも役割を果たした。
こうした経験、最前線での活動、現場を直接知ることにより、彼は安全保障を「自らの経験から」理解する人物となった。そのことは後年、イスラーム共和国の軍事・治安機構の指導を実務面で支えた。
そして...1981年が訪れ、彼を暗殺しようとする事件が起こった...
致命的な傷を負わせる攻撃だったが、その意志はいっそう強くなった。
彼は再び闘争の道に戻った。今度は、それまで以上の決意をもって...
こうした経験を携え、押しつけられた戦争のさなかに、8年間の大統領任期に入った。

その間、東にも西にも依存しない独立した外交を進めた。同時に、戦争という状況の中で、恵まれない人々を支える経済政策を推進した。

イマーム・ホメイニーの死後、アーヤトッラー・ハーメネイーはイスラーム革命の指導者に選ばれた。
戦争が終結した後も、指導を担ったすべての歳月を通じて、同じ不屈の精神が保たれた。
彼は、イランが外国勢力の圧力に屈したくないのであれば、
それが戦争であれ、軍事的な脅威であれ、経済制裁であれ、より強くならなければならないと明確に理解していた。
8年間のイラン・イラク戦争でイランは深く傷ついたが、37年を超える彼の指導の間に、復興、能力の拡充、意思決定の独立性の確立に力を注ぎ、地域で影響力を持つ大国となった。

脅威に満ちた地域で...
アメリカが代理戦争をあおる中、イマーム・ハーメネイーは多層的な安全保障秩序の基盤、抑止力を強めるための基盤、

そして脆弱性を減らすための基盤を築いた。同時に、イスラーム共和国が地域の抑圧された人々を包括的に支援するための

基盤でもあった。
その結果は...
自らの能力に根ざした防衛力とミサイル能力の構築だった。
革命前、イランは弱く、依存的な国だった。統治者は西側の指示なしに行動できず、北からも南からも容易に占領された。しかし彼の指導の下で、独立した国家となった。今日、最も強い圧力と複雑な脅威の下でも、揺るぎなく立ち、退かない国である。

経済面でも、戦争で傷ついた国を、東にも西にも依存しない、自立した発展のモデル
によって工業化へ導いた。その結果、厳しい制裁下でも、基本的な需要を満たすことができた。政治面では、イマーム・ホメイニーの道を歩み、宗教に基づく民主主義を強めた。国民の投票によって植えられた苗は、同じ民意に支えられ、強い樹木へと育った。それは、特定の個人ではなく国民を支えとするモデルであり、だからこそ、彼の死後も立ち続けるのである。

イマーム・ハーメネイーの不屈の姿勢は、単なる権力の計算に根ざすものではない。弱者は降伏するか、滅ぼされるしかないとする「弱肉強食」の論理とは異なり、その根底にあるのは信仰である。神と神の約束への信仰である。社会が正義を守るために立ち上がり、代償を引き受けるなら、「勝利」は単なる可能性ではなく、揺るぎない約束になるという信仰である。この視点こそ、政治、精神性、抵抗の結びつきを説明している。
抵抗と神の約束への信仰による
勝利についての発言
全能の神はクルアーンで、破られることのない約束をなされた。「あなた方がアッラーを助けるなら、かれはあなた方を助け、その足を確かなものにしてくださる」(1)。「アッラーは、かれが助ける者の誰をも助けない」(2)。「まことに、アッラーは信仰する人々を守られる」(3)。「人々に益をもたらすものは地上に残る」(4)。あなた方がアッラーを助けるなら、かれはあなた方の足を、あなた方の足を確かなものにしてくださる。人々に益をもたらすものは永続し、残る。水面の泡はつかの間のものであり、不正と虚偽は水面の泡なのである。
そしてついに、2026年2月28日の朝、生涯にわたる抵抗の末に、彼は「殉教」によって不滅となり、もう一つのアーシューラーを刻んだ。真理を守り、屈辱を拒むという原則を、決して踏みにじらなかった。「抑圧からの人間の解放」の一例としてのパレスチナ支援も、同じ方向にあった。肉体は国民のもとを去ったが、その名は、人々の心を導く強い指導者の名として歴史に残るだろう。決して力に屈せず、イランを栄光と誇りへ導いた指導者である。

発言:
イマーム・フサイン(彼に平安がありますように)は「私のような者は、ヤズィードのような者に忠誠を誓わない」と言われた。イラン国民は、事実上こう宣言している。私たちのような国民、この文化、この歴史、この高い教育水準を持つ国民は、今日アメリカで権力を握る腐敗した人物たちのような指導者に、忠誠を誓わない。1404年11月28日
そしてイマーム・フサイン(彼に平安がありますように)の道、犠牲と尊厳、抑圧に屈しない道において、イマーム・ハーメネイーも殉教した。
その殉教自体が、不屈の模範となるのである。
彼の不屈の姿勢は...
イマーム・ホメイニーが植えたイスラーム革命の苗を実らせた。それは、イランの独立を意味した。そして、イマーム・フサインの民は、パレスチナの人々を決して孤立させないことを示した。
殉教は終わりではない。始まりである。
時と空間の境界を超える光を放つ、星の誕生である。
今、その光はイスラームの民の間に、そして世界で自由を愛する人々の間に輝き始めた...

屈辱に抗する
威圧に立ち向かう



アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・
ホセイニー・ハーメネイーについて詳しくは、
「Echo of Islam」のリンクをご覧ください。

殉教したアーヤトッラー・ハーメネイーの後継者は誰か?

略伝
アーヤトッラー
セイエド・モジュタバー・
ホセイニー・ハーメネイー

アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーは、1969年9月7日、学問と宗教を重んじる環境の中、マシュハドに生まれた。セイエド・モジュタバーは、パフラヴィー王政に対する革命的な蜂起が次第に高まる環境の中で幼少期を過ごした。セイエド・アリー・ハーメネイーも、反政府の政治運動に積極的に関わる若い宗教者の一人だった。当時、家はサーヴァークの捜査官によって何度も捜索され、セイエド・アリーは幾度も投獄され、流刑に処された。これらの出来事によって、セイエド・モジュタバーの生活と記憶は、1979年のイスラーム革命以前の時代と直接結びついている。

1979年、イランのイスラーム革命が勝利すると、パフラヴィー体制は崩壊し、イラン・イスラーム共和国が成立した。その後、1359年シャフリーヴァル月31日、サッダーム・フサインの軍が、一部の国際的な大国や地域諸国の支援を受けてイランに侵攻した。テヘランのアラヴィー校で中等教育を修了した1366~1387学年度、まだ17歳で、父がイラン・イスラーム共和国の大統領だったころ、セイエド・モジュタバーは志願して前線の戦士たちに加わった。「ムハンマド・ラスールッラー(彼に平安がありますように)」師団の「ハビーブ・イブン・マザーヒル」大隊に所属し、国の西部と北西部の前線で、複数の重要な作戦に参加した。
押しつけられた戦争の終結後、1368年、セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーは、宗教学校での学びを修了するため、イスラーム諸学の中心地ゴムへ赴き、1371年初めまで暮らした。その後、テヘランに戻り、宗教学校での学びを続けた。また1995年からは、勉学と並行して、アーヤトッラー・モジュタヒドの宗教学校で、イスラーム法学と法原理の入門課程を教えた。
1999年は、セイエド・モジュタバーの人生の転機となった。この年、ザフラー・ハッダード・アーデルと結婚し、2人の息子、モハンマド・バーゲルとモハンマド・アミーン、そして娘ファーテメが生まれた。
結婚後、アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ハーメネイーは、宗教学校での学びを修了し、精神的な境地を高めるため、家族とともに再びゴムへ移った。宗教学校の最上級課程(いわゆる通信課程)に参加し、17年以上にわたり、上級の法学諸分野を真剣かつ積極的に学んだ。

1379年、ゴムで『ラサーイル』や『マカースィブ』(法学と法原理の上級段階)などの科目を個別に教え始め、1383年まで続けた。その後、1384年と1385年には、『マカースィブ』などの上級法学を、ゴムの宗教学校の一つで教え始めた。そして1387年、イランで最も重要な宗教学校であるフェイジーエで、「ハーレジ」(法学と法原理の最上級課程)の講義を始めた。

アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーの特質として、周囲の人々が繰り返し挙げてきたのは、質素さと謙虚さである。彼は、きわめて質素な生活で知られる宗教者の家庭に育った。足るを知り、ぜいたくを避けることが道徳上の原則とされる環境だった。この実践は、その後も続き、現在まで、個人生活、家族生活、夫婦生活において守られている。社会的、政治的な立場にかかわらず、彼は謙虚で慎み深く、誠実に人々と接してきた。
アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーの謙虚さと慎み深さは、国の指導者としての最初のメッセージに明確に表れた。その中で、自分を「殉教した指導者」と同等とはせず、同時に国民の根本的な役割を強調した。彼は謙虚に、国の主要な力はイラン国民にあると述べた。ノウルーズに際してのメッセージでも、人々の問題や不安を身近に知るために、タクシーで人々と出会った経験を語った。
アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーは、自分の子どもたちが政府の高位の役職に就くべきではないとしていた。また、セイエド・モジュタバー自身も、メディアの騒ぎを避け、表に出ないことを望んでいた。そのため、父の生前に公式の役職に就いたことはなかった。しかし、父が信頼する助言者であり、体制を支える有能な一員として、さまざまな領域で役割を果たした。軍の司令官との継続的な協議、抵抗戦線との効果的な意思疎通、戦略的な課題への対応、基本的な政治判断を説明するための専門家との会合、有能な人材の発掘と支援、学術拠点の強化などである。



1404年3月29日の残忍なアメリカ・シオニストの攻撃により、イスラーム革命指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーが殉教すると、イスラームのウンマは深い悲しみに包まれた。イラン国民が模範的な忍耐と団結を示し、亡き指導者の記憶と道を大切にする中、専門家会議は、速やかに会合を開いた。そして情勢とイスラーム体制の最高の利益を検討し、1404年3月17日、聖なるラマダーンの19夜目、すなわち「力の夜」の一夜に当たる日に、多数決でアーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーを、イラン・イスラーム共和国の新たな指導者として発表した。



ペルシア湾とホルムズ海峡について
殉教したイスラーム革命指導者が語った
戦略上重要な10の論点

ペルシア湾における
イランの勝利:
地域の新たな秩序の
夜明け



1. ペルシア湾にアメリカの外国勢力が駐留し、拠点を固めることが、地域の不安定化の主因である。

2. 脆弱で不安定なアメリカの基地は、自らの安全さえ確保できない。

3. ペルシア湾地域の明るい未来とは、アメリカの駐留がなく、各国の進歩、福祉、繁栄に資する未来である。

4. ペルシア湾とオマーン海の近隣諸国と、私たちは「運命を共にする」。

5. 侵略的な外国勢力に、ペルシア湾の海底以外の居場所はない。

6. ペルシア湾におけるイスラームのイランの連続した勝利は、地域と世界の新たな秩序の夜明けである。

7. イランに与えられたホルムズ海峡の管理という恵みを実践し、ペルシア湾の安全を確保する。

8. 敵対する勢力によるホルムズ海峡の利用を終わらせる。

9. ホルムズ海峡の新たな管理と、それに対応する法的枠組みを通じて、地域のすべての国民の繁栄と進歩を確保する。

10. ホルムズ海峡の新たな管理がもたらす経済的な利益によって、イラン国民に喜びをもたらす。



イラン国民に向けた殉教した指導者の声明「イスラーム革命の第二歩」より抜粋

イスラーム革命勝利40周年に際し、イスラーム革命指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーは、1397年バフマン月22日(2018年2月11日)、革命の将来の大局的な方針を定める歴史的な声明を発表した。

イランの栄光あるイスラーム革命は、数多くの困難を乗り越え、重要な成果を上げ、40周年を前に、希望をもって5番目の10年に踏み出した。

イスラーム革命の賢明な指導者、アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーは、今後の道を明らかにするため、「革命の第二歩」声明を発表した。過去40年間の偉大な成果を強調し、「栄光あるイスラームのイランを築くための大いなる努力」に向けた根本的な指針を示す声明である。

「革命の第二歩」声明は、イラン国民、とりわけ若者に向けた新たな宣言であり、「自己形成、社会形成、文明建設の第二段階」のための戦略的な文書として、

イスラーム共和国の歩みに新たな章を開くものである。この第二歩によって、革命は、新たなイスラーム文明の創造という高い目標へ近づいていく。
過去を正しく理解することは、今後の段階を進むために欠かせない。声明の第一部で革命指導者は、革命の輝かしい広がりと国の尊厳を示す指標を説明し、「私たちにはできる」という自信と信念を強めた。

この声明は、「イスラームのイラン」を築くという大いなる理想の実現と、未来への道筋を描くための重要な要素を示している。第一の要素は、革命の標語を重視し、警戒を怠らないことである。これらの標語を軽視することは害をもたらすからだ。

声明が強調するように、私たちは革命とその成果を正しく理解しなければならない。交通、科学技術、市民参加、政治意識(国内と国際)、水と電力の公平な供給、産業開発、ダム建設、住宅建設、精神性の向上など、さまざまな分野で大きな進歩を遂げてきた。
革命指導者が以前に説明したように、イスラーム革命の歴史的な道筋は明確に定められている。1380年、彼は初めて5段階の過程を示した。「イスラーム革命」に始まり、「イスラーム体制」、「イスラーム国家」、「イスラーム社会」を経て、最終的に「イスラーム文明」に至る過程である。このモデルに基づけば、最初の2段階であるイスラーム革命とイスラーム体制は達成され、現在は「イスラーム国家」の段階が重視されている。目標の設定と成果の評価の基盤となりうる「第二歩」声明の主要な柱は、次のとおりである。
1. 科学の発展を加速するため、科学の地平を広げる。
2. 知識に基づく経済を実現する。

3. 精神性を高め、精神性の否定と不道徳の広がりを防ぐ。

4. 正義を推進し、とりわけ公的機関における腐敗と闘う。

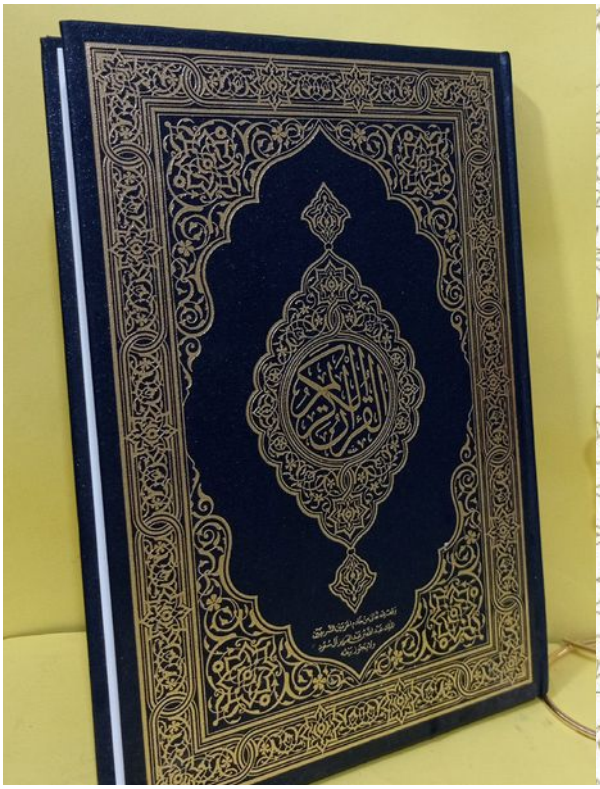
5. イスラームの生活様式を広め、西側の生活様式の普及に対抗する。

6. 独立と自由を重視する。
7. 国の尊厳、対外関係、敵との境界の明確化を推進する。
この声明は、イスラーム革命の基本的な方向性を示し、西側と東側の文明との違いを明らかにしている。
革命の第二段階について詳しくは、以下のリンクをご覧ください。
https://russian.khamenei.ir/news/3629



イスラーム革命の偉大な指導者から欧州と北米の若者への書簡

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。
欧州と北米のすべての若者へ。
フランスで最近起きた事件や、ほかの西側諸国で起きた同様の出来事を受け、私はこのことについて、皆さんに直接語りかけようと決めました。若い皆さんに呼びかけるのは、皆さんの父母を軽んじているからではありません。皆さんの国民と国土の未来は、皆さんの手にあると考え、また、皆さんの心にある真理を求める思いは、より生き生きとして、鋭敏であると考えるからです。この書簡では、皆さんの政治家や指導者にも呼びかけません。彼らは政治の道を、誠実で正しい道から意図的に逆の方向へそらしたと、私は確信しているからです。



私は皆さんと、イスラームについて、より具体的には、イスラームとして皆さんに示されている姿やイメージについて語りたいと思います。この20年、すなわちソビエト連邦の崩壊以降、この偉大な宗教を恐ろしい敵として描くための、強力な取り組みが続いています。恐怖や憎しみをあおり、利用することは、残念ながら、西側の政治史において長く行われてきました。ここでは、西側諸国の人々に今日まで植えつけられている、さまざまな恐怖について詳しく述べるつもりはありません。近年の批判的な歴史研究に目を通せば、世界のほかの国民や文化に対する西側諸政府の不誠実で偽善的な行動が、歴史の新たな記述において非難されていることを、皆さん自身で確かめられるでしょう。欧州とアメリカの歴史は、奴隷制度の時代を恥じ、植民地主義の時代に汚され、ほかの人種やキリスト教を信じない人々に対する暴力を恥じています。皆さんの研究者や歴史家は、第一次、第二次世界大戦の中で、カトリックとプロテスタントの間で宗教を口実に、あるいは国民的・民族的な帰属を掲げて流された血を、深く恥じています。

このこと自体は、称賛に値します。私も、この長い一覧の一部を挙げることで、歴史を非難しようとしているわけではありません。ただ、皆さんの思想家たちに尋ねてほしいのです。なぜ西側の社会の良心は、常に数十年、時には数百年遅れて目覚め、真実を知るのでしょうか。なぜ社会の良心の目覚めは、今ある問題ではなく、遠い過去に向けられなければならないのでしょうか。イスラームの文化や思想にどう向き合うかという重要な問題について、社会の認識を育てる試みが、なぜ阻まれるのでしょうか。

他者を侮辱し、架空の恐怖や憎しみをつくり出すことが、暴力によって自らの利益を追求する者たちに共通する手口であることを、皆さんはよく知っています。そこで今度は、自分自身に問うてほしいのです。なぜ、恐怖と憎しみを広める古い政策が、今回はかつてない強さでイスラームとムスリムを標的にしているのでしょうか。なぜ現代世界の権力構造は、イスラームの思想が脇に追いやられ、

受け身のままであることを望むのでしょうか。大国の計画を妨げる、どのような意味や価値がイスラームにあるのでしょうか。イスラームの歪んだ姿を示すことで、どのような利益が満たされるのでしょうか。だからこそ、まず皆さんに、イスラームを汚そうとする大規模な取り組みの動機を問い、調べてほしいのです。

第二に、偏見と否定的な宣伝の波に対して、この宗教について、直接、仲介者を通さずに知る努力をしてください。何を怖がらされ、何から逃げるよう言われているのか、その本質は何かを、少なくとも知ることが、良識ある判断には必要です。私のイスラーム理解や、ほかのいかなる解釈にも同意するよう、強いるつもりはありません。ただ、現代世界におけるこの活力と影響力を持つ現実が、野心や不透明な目的によって歪めて伝えられることのないよう、呼びかけています。彼らが雇ったテロリストを、偽善的にイスラームの代表として見せることを許さないでください。真正な資料、一次資料を通じてイスラームを知ってください。クルアーンと、偉大な預言者(彼とその一族にアッラーの祝福がありますように)の生涯を通じて、イスラームに触れてください。ここで皆さんに尋ねたいと思います。これまでに、ムスリムのクルアーンに向き合ったことがありますか。イスラームの預言者(彼とその一族にアッラーの祝福がありますように)の教え、倫理と人間性についての教えを読んだことがありますか。メディア以外の情報源から、イスラームのメッセージを聞いたことがありますか。このイスラームが、どのように、どのような価値に基づき、幾世紀にもわたって世界最大の学問と知の文明を育み、偉大な学者や思想家を世界に送り出したのか、自分に問うたことがありますか。

非現実的で歪んだイメージによって、皆さんと現実の間に感情的な壁を築き、偏りなく判断する機会を奪うことを許さないでください。通信や交流の手段が地理的な境界を取り払った今、



皆さんを人為的な認識の境界の中に閉じ込めさせないでください。生じた隔たりを一人で埋めることは誰にもできなくても、皆さん一人ひとりが、自らの理解を深め、周囲の認識を高めるために、その隔たりの上に思想と正義の橋を架けることはできます。若い皆さんとイスラームとの間に、あらかじめ仕組まれたこの問題は、好ましいものではありません。しかし、好奇心を持ち、探究する皆さんの心に、新しい問いを呼び起こすことができます。その答えを求める努力は、新たな真実を見いだす好機を与えてくれます。ですから、先入観を持たず、イスラームを正しく理解するこの機会を逃さないでください。皆さんが真理に対して責任を果たすことによって、次の世代が、西側とイスラームとの関係のこの時期の歴史を、より少ない苦しみと、より軽い良心の負担で記せるようになることを願っています。

セイエド・アリー・ハーメネイー
2015年1月21日



西側諸国の若者への イスラーム革命指導者の 第二の書簡

慈悲あまねく慈愛深き至高の神の御名において。

西側諸国の若者へ。
テロリズムが見境なく人を襲うことを露わにした、フランスでの痛ましい出来事を受け、私は再び、若い皆さんに語りかけようと思いました。このような事件が対話のきっかけになることは、深く残念に思います。しかし、つらい問題を解決策の探求や共通の理解を築く機会にできなければ、損失は倍増するというのが現実です。世界のどこであれ、誰かの苦しみは、それ自体が同じ人間である私たちの痛みになります。大切な人が目の前で命を失う子ども、家族の喜びが悲しみに変わる母親、息を引き取った妻を抱いて運ぶ夫、次の瞬間に人生の最後の幕を見るとは知らない観客。その姿は、人の感情を揺さぶらずにはいません。フランスであれ、パレスチナ、イラク、シリア、レバノンであれ、愛と人間性を知る誰もが、こうした光景に心を曇らせ、悲しむはずです。15億人のムスリムも、間違いなく同じ思いを抱いています。そして、これらの悲劇を実行し、責任を負う者たちに対しては、

恐怖と嫌悪を抱いています。しかし、今日の苦しみを、より明るく安全な明日の源にできなければ、心に残るのは苦く、実りのない記憶だけです。

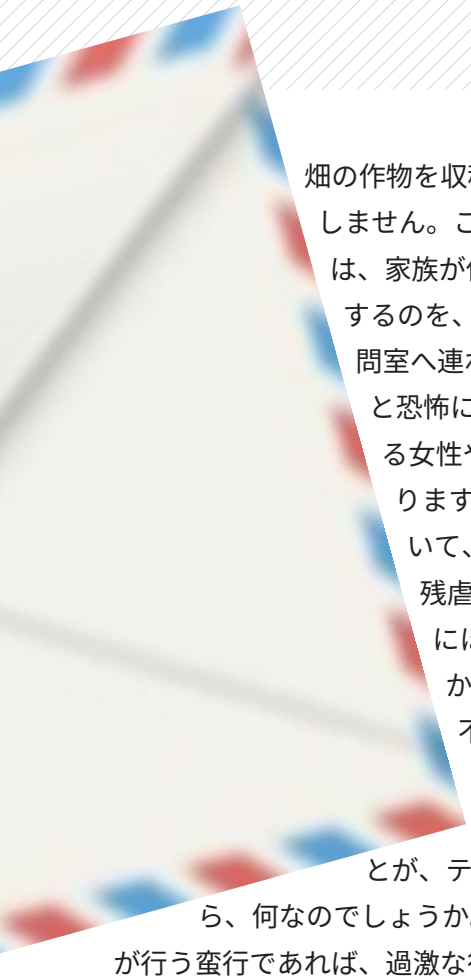
この不穏な今日から教訓を得て、明日を築く新たな道を見いだし、西側を現在の地点へ導いた行き詰まりを阻むことができるのは、若い皆さんだけだと、私は心から信じています。

そうです。今日、テロリズムは私たちと皆さんに共通する痛みです。しかし、最近の事件で皆さんが味わった絶望と苦しみと、イラク、イエメン、アフガニスタン、シリアの人々が長年耐えてきた苦痛には、二つの大きな違いがあることを知ってください。第一に、イスラーム世界は、より広い範囲で、より大きな規模で、より長い期間、暴力と残虐行為の犠牲になってきました。第二に、残念ながら、その暴力の多くは、さまざまな形で一部の大国から発し、その支援を受けてきました。アル=カーイダ、ターリバーン、そしてその不吉な後継勢力の創設、強化、武器による支援にアメリカが果たした役割を、今日、世界で知らない人はほとんどいません。こうした直接的な支援に加えて、タクフィール主義の集団を支援することで知られる国々は、最も遅れた政治体制を持ちながら、常に西側の同盟国でした。その一方で、この地域の活力ある民衆の民主主義から生まれた、最も先進的で明るい思想は、きわめて残酷に抑圧されてきました。イスラーム世界の覚醒運動に西側が適用する二重基準は、その政策の矛盾を雄弁に示しています。

この矛盾のもう一つの側面は、イスラエルの国家テロに対する



支持と擁護に表れています。抑圧されたパレスチナの人々は、60年以上にわたり、最悪の形のテロリズムを経験してきました。今日、欧州の人々が数日間、自宅に避難し、人の多い中心街や場所を避けるとすれば、パレスチナの家族は、シオニスト体制の死の機械にひかれないよう、何十年もの間、自宅にさえ安全な場所を見いだせずにいます。占領下のパレスチナの土地にシオニスト体制が築く入植地に、残酷さの点で比べられる暴力が、今日ほかにあるでしょうか。この体制は、影響力のある同盟国や、少なくとも外見上は独立した国際機関から深刻で実効性のある非難を受けずに、日々、パレスチナ人の家を壊し、農地や果樹園を破壊しています。家財を運び出すことさえ、



畑の作物を収穫することさえ許しません。こうしたことの多くは、家族が傷つけられ、負傷するのを、時には恐ろしい拷問室へ連れ去られるのを、涙と恐怖に満ちた目で見つめる女性や子どもの前で起こります。規模と期間において、これに比べられる残虐行為が、現代世界にほかにあるでしょうか。武装した兵士に不満や抗議を示したという理由だけで女性を射殺することが、テロリズムでないなら、何なのでしょうか。占領国家の軍隊が行う蛮行であれば、過激な行為と見なすべきではないのでしょうか。それとも、こうした光景が60年にわたってテレビに映り続けたから、もはや私たちの良心を揺さぶるべきではないのでしょうか。

それ自体が数え切れない犠牲者を生んだ、近年のイスラーム世界への軍事作戦と攻撃も、西側の矛盾した論理を示す別の例です。
攻撃を受けた国々は、人命だけでなく、産業と経済の基盤も失いました。発展と進歩への意欲は停滞させられ、あるいは根底から奪われ、いくつかの指標では数十年も後退しました。それなのに、自分たちを抑圧された側と考えるなと、厚かましく要求されます。国を廃墟にし、都市や村を地面と同じ高さにまで壊しておいて、「どうか、抑圧されたとは考えないでください」と言うことが、どうしてできるのでしょうか。こうした悲劇を忘れたり、誤って理解したりするよう求めるのではなく、誠実に謝罪するほうがよいのではありませんか。この数年間、イスラーム世界が受けてきた苦しみ、侵略者の二枚舌と偽善による痛みは、物的な損害に決して劣りません。
親愛なる若い皆さん。
今、あるいは将来、皆さんが、偽善に侵された考え方を変えることを願っています。遠い目的を隠し、悪意ある意図を美しく見せることに巧みな考え方です。私にとって、安全と平穏を築く第一歩は、この暴力的な思考を改めることです。西側の政策を二重基準が支配し、強大な支援者たちがテロリズムを良いものと悪いものに分け、政府の利益が普遍的な人間の価値や倫理を上回る限り、暴力の根をほかに探すことは無意味です。

残念ながら、この根は長い年月をかけて西側の文化政策の深部へ浸透し、穏やかで静かな攻撃を生んできました。世界の多くの国々は、自国の伝統文化を誇りにしています。それらは、生まれ、発展しながら、数百年にわたり人間社会を豊かに育んできた文化であり、イスラーム世界も例外ではありません。しかし現代の西側世界は、高度な手段を使い、世界の文化を自らの型に当てはめ、同化させることを強く求めています。ほかの国民に西側文化を押しつけ、独立した文化を尊大に扱うことは、音を立てない、しかしきわめて明白な暴力だと、私は考えます。豊かな文化を侮辱し、その最も尊い部分を冒涜しながら、代わりに置く文化には、置き換えるだけの力がありません。たとえば「攻撃性」と「道徳的な放縦」は、残念ながら、西側文化の主要な要素となり、その発祥地でも人気と受容が低下しています。ここで疑問が生まれます。好戦的で攻撃的、下品で無意味な文化を受け入れたくないと思えば、私たちは有罪なのでしょうか。

いわゆる芸術として若者に送り込まれる、さまざまな作品の破壊的な流入を阻めば、私たちは悪いのでしょうか。自然な条件の下で、社会に常に敬意をもって受け止められ、その発展、豊かさ、成長を促してきた文化交流の意味と価値を、私は否定していません。これに対し、押しつけられた、不自然な交流は、実を結ばず、害と損失をもたらしてきました。深く残念ですが、ISILのような、イスラームを僭称する集団は、こうした実を結ばない交流や、輸入された文化から生まれていると言わねばなりません。問題が本当に思想にあるなら、植民地時代より前にイスラーム世界でこうした現象が起きたはずですが、歴史は逆を示しています。一部の史料は、原始的なベドウィン部族の中で、植民地主義が過激で逸脱した思想と出会い、この地域で過激主義の種が育った過程を、明確に示しています。そうでなければ、一人を殺すことを全人類の殺害に等しいと根本の教典に記す、世界で最も倫理的で人間的な宗教の教えから、ISILのような汚物が生まれることが、どうしてありうるのでしょうか。一方で、欧州で生まれ、そこで知的、心理的に成長した人々が、なぜこの種の集団に引きつけられるのかを問う必要があります。戦地へ数度赴いただけで、同胞を射殺できるほどの過激な急進主義者へ、突然変わると信じられるでしょうか。暴力を促す劣悪な環境の中で、イスラームの名のもとに広められる不健全な文化が生活に及ぼす影響を、決して忘れてはなりません。この点では、社会の目に見える傷と隠れた傷を明らかにする、包括的な分析が必要です。産業と経済が長く繁栄する中で、不平等、とりわけ法的、構造的な差別によって、西側社会のある層の心に育った深い憎しみが、こうした形で時折、痛ましく表れる思想を生んだのかもしれません。

いずれにせよ、皆さん自身が、社会の表層を取り払い、その中にある憎しみの結び目を探し出して解き、亀裂を深めず、埋めて修復しなければなりません。テロ対策における大きな誤りは、既存の隔たりを広げる性急な反応です。欧州やアメリカに暮らす、活動的で活力があり、責任を担える数百万人を含むムスリム社会に、孤立、恐怖、苦しみをもたらす、緊張と動揺の中での性急な行動は、その基本的な権利をいっそう奪い、社会活動から排除します。それは問題を解決せず、むしろ隔たりを深め、疎外と反感を生むでしょう。表面的で場当たり的な措置は、とりわけ法的な裏づけを与えられた場合、社会の既存の分断を強め、将来の危機を招く以外の結果をもたらしません。報道によれば、欧州の一部の国では、市民にムスリムを監視させる規則が導入されています。これはきわめて残酷な振る舞いです。悪は、意図するか否かにかかわらず、ブーメランのように戻ってくることを、私たちは皆知っています。ムスリムは、こうした恩知らずな扱いを受けるべきではありません。西側世界は、幾世紀にもわたり、ムスリムをよく知ってきました。イスラームの土地の客となり、主人の富に目をつけていたときも、自らが主人としてムスリムを迎え入れたときも、その活動から利益を得ながら、友好的な態度と忍耐以外のものを見てこなかったのです。だからこそ、親愛なる若い皆さんに、この不快な経験を生かし、イスラーム世界との気高く、敬意ある関わりに基づいて、正しく、思慮深い理解の土台を築いてほしいと思います。そうすれば、遠くない将来、この強固な土台の上に皆さんが築いた建物が、建てた人々に信頼と安心の大きな庇護を与え、平穏と安全の温かさをもたらし、明るい未来への希望の光を地球に注ぐ姿を、目にするでしょう。

セイエド・アリー・ハーメネイー
1394年アーザル月8日
2015年11月29日



パレスチナを支持するアメリカの大学の学生たちへの書簡

2024年5月30日

イスラーム革命指導者アーヤトッラー・ハーメネイーは、アメリカの大学でパレスチナの人々を支持する誠実な学生たちに宛てた書簡で、その反シオニストの抗議行動への連帯と共感を表し、彼らを抵抗戦線の一員と呼んだ。そして、傷つきやすい西アジア地域の情勢と運命が変わりつつあることを強調し、世界史の転換が目の前で起きていると述べた。

革命最高指導者の書簡の全文を、以下に掲載する。

慈悲あまねく慈愛深き至高の神の御名において。

目覚めた良心に促され、抑圧されたガザの子どもたちと女性たちを守ろうとする若者に、この書簡を送ります。

親愛なるアメリカ合衆国の学生の皆さん。これは、皆さんへの連帯と共感のメッセージです。

今、皆さんは、新たなページをめくりつつある歴史の正しい側に立っています。

今や皆さんは、抵抗戦線の一員となりました。残虐なシオニスト体制を公然と支持する自国政府から厳しい圧力を受けながら、立派な闘いを始めたのです。

大いなる抵抗戦線は、皆さんが今抱く認識、感情、理解をもって、皆さんから遠い世界の一隅で、長年闘ってきました。その目的は、「シオニスト」と呼ばれる冷酷なテロのネットワークが、何年も前からパレスチナの人々に加えてきた露骨な暴力を止めることです。祖国を占領した後、人々に容赦のない圧力と拷問を加えてきました。シオニストのアパルトヘイト体制が今日行うジェノサイドは、過去数十年の、きわめて残酷な行為の延長にあります。

パレスチナは、ムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒が暮らす、長い歴史を持つ独立した土地です。世界大戦の後、シオニストのネットワークの資本家たちは、英国政府の助けを得て、数千人のテロリストをこの土地へ連れてきて、徐々に住み着かせました。彼らは都市や村に侵入し、何万人もの人々を殺害し、あるいは周辺諸国へ追放しました。家、市場、農場、畑を奪い、占領したパレスチナの土地に、イスラエルと呼ばれる政府をつくったのです。

英国による最初の援助の後、この占領体制を最も強く支えてきたのは、アメリカ合衆国政府でした。政治、軍事、経済の支援を続け、許しがたい無責任さによって、核兵器の製造への道さえ開き、あらゆる形でそれを助けました。

シオニスト体制は、初日から無防備なパレスチナの人々に鉄拳の政策を適用しました。人間的、宗教的な価値と良心をすべて無視し、残虐行為、テロ、弾圧を日ごとに増やしてきました。

アメリカ政府とその協力国は、国家テロと継続的な暴力に対し、ごく普通の憤りを示すことさえ惜しみました。今日なお、ガザ地区の恐るべき犯罪についてのアメリカ政府の発言の一部は、実質的なものというより、偽善的なものです。

この暗く、錆びついた環境のただ中から抵抗戦線は生まれ、イランにイスラーム共和国の政府が成立したことで、その広がりと力を増しました。

アメリカと欧州のメディア企業の大半を所有するか、資金や賄賂によって影響を及ぼす国際シオニズムの指導者たちは、この勇敢で人間的な抵抗を、テロリズムとして描きました。自分たちの土地で、シオニスト占領者の犯罪から身を守る国民は、テロリストなのでしょうか。その国民を人道的に助け、力を強めることは、テロ支援なのでしょうか。世界を支配する指導者たちは、人間の基本的な概念さえ傷つけます。残虐でテロを行うイスラエルの体制を、自衛する側と描き、自由を守るパレスチナの抵抗を、



安全と自決の権利を守っているのに、テロリストと呼ぶのです。
今日、情勢は変わりつつあることを、皆さんに伝えたいと思います。繊細な西アジア地域には、別の運命が待っています。世界各地で多くの人々の意識が目覚め、真実が表に出ました。抵抗戦線は強くなり、これからもいっそう強くなるでしょう。歴史もまた、新たなページをめくりつつあります。
皆さんだけでなく、アメリカの数十の大学の学生や、ほかの国々の人々も立ち上がりました。大学の教員が学生の皆さんを支持し、評価していることは、重要で影響力のある出来事です。アメリカ政府による警察の圧力や、皆さんへの圧迫に対して、ある程度の慰めとなるでしょう。
私も、若い皆さんに連帯し、その粘り強さを評価しています。
聖クルアーンが私たちムスリムと、世界のすべての人々に教えるのは、真理の道で揺るぎなく立つことです。「命じられたとおり、まっすぐに立ちなさい...」(聖クルアーン「フード」章、第112節の一部)。人と人との関係については、「...害を与えなければ、害を受けることもない」(聖クルアーン「雌牛」章、第279節の一部)と教えます。抑圧されず、抑圧してはなりません。真理の戦線は、これらをはじめとする何百もの教えを守り、実践しながら前進しています。そして、神の助けによって勝利するでしょう。
クルアーンに触れることを、皆さんに勧めます。
セイエド・アリー・ハーメネイー

1403年3月5日
2024年5月30日

大アーヤトッラーの殉教に寄せられた外国の要人たちのメッセージ

セイエド・アリー・ハーメネイー



教皇レオ14世

カトリック教会の長、教皇レオ14世は、アメリカとイスラエルによるイランへの攻撃に「深い懸念」を示し、脅迫や殺傷兵器によって平和は実現しないと述べた。
日曜日のバチカン・ニュースによれば、教皇はイランへのアメリカとイスラエルの攻撃を受け、中東に広がる暴力を念頭に、平和を実現する道徳的な責任を各国が忘れないよう呼びかけた。



プーチン大統領

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、アメリカとイスラエルによるイラン指導者の殺害に深い哀悼の意を表し、この行為は人間の倫理と国際法のあらゆる規範に反すると述べた。
さらに、アーヤトッラー・ハーメネイーは、卓越した政治家として、ロシアの記憶に永遠に残るとした。モスクワとテヘランの友好関係の発展に大きく貢献し、両国関係を包括的な戦略的パートナーシップへ高めた人物であると述べた。



ナビーフ・ベッリー

レバノンのナビーフ・ベッリー国会議長は、土曜日のアメリカ・イスラエルの攻撃によるアーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表し、この死はイスラームのウンマを強めると述べた。



パレスチナの「イスラーム聖戦」運動

パレスチナの「イスラーム聖戦」運動とその軍事部門は、日曜日、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教への哀悼声明を発表し、パレスチナの大義を支えるための彼の犠牲と闘いの道を尊重すると述べた。また、指導者への攻撃は抵抗勢力の歩みを止めないと強調し、イスラーム共和国の能力への全面的な信頼を表明した。



アゼルバイジャン

アゼルバイジャン共和国の外相も、外相のアラーグチー博士との電話会談で、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表した。会談でアラーグチー博士は、侵略から国を守るイランの確固たる決意を強調した。



パキスタン大統領

パキスタンのアーシフ・アリー・ザルダーリー大統領は、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表し、その喪失はムスリム世界全体で感じられるだろうと述べた。
日曜日の弔意のメッセージで、独立国の指導者に対する攻撃への懸念を示した。
アメリカとイスラエルによるハーメネイーとイランの高位の将軍たちの殺害を受け、イランの国民と政府に共感を表し、この深い悲しみのときに、パキスタンはイランを支持すると述べた。



トルコ大統領

トルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン大統領は、イスラーム革命指導者の殉教に哀悼の意を表した。日曜日、SNS「X」への投稿で、アメリカとイスラエルの共同攻撃によるアーヤトッラー・ハーメネイーの殺害を悼み、アッラーの慈悲を祈った。そしてトルコを代表し、兄弟であるイラン国民に弔意と共感を表した。



キューバ大統領

ミゲル・ディアスカネル・ベルムーデスは、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に際し、イランの国民、政府、大統領に弔意を表し、明白な国際法違反だと述べた。SNS「X」には「アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーの恐るべき殺害は、国際法と人間の尊厳のあらゆる規範に対する重大な違反である」と記した。



タジキスタン大統領

エモマリ・ラフモンは、3月2日付のマスウード・ペゼシュキアン宛てのメッセージで、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表した。タジキスタンとイランの包括的で建設的な関係の発展にハーメネイーが果たした重要な役割を強調し、彼と、アメリカとイスラエルのイランへの攻撃によるすべての殉教者に、アッラーの慈悲を祈った。



パキスタン首相

シャフバーズ・シャリーフは、イスラーム革命指導者の殉教に際し、イランの政府と国民に弔意を表した。この犯罪は国際的な規範に反すると述べた。



シェイフ・イブラーヒーム・ザクザキー

敵はこれらの人々を殺したとき、最高指導者と上級軍司令官、合わせて40人すべての働きは終わったと考えた。
当初、敵はすべてがわずか4日で終わると見込んでいた。指導者と上級司令官を排除すれば、政府に疲れた国民が反乱を起こし、政府は崩壊し、政権が交代するという計画だった。
セイエド・カーイドの殉教は、敵がイスラーム革命そのものに対抗し、抑え込もうとしていることを示した。しかし、敵が革命の世界的な広がりを恐れていたとき、革命はすでに広がっていたのである。



セイエド・アンマール・アル=ハキーム

イラクの「国民の叡智」運動の指導者、セイエド・アンマール・アル=ハキームは、声明で出来事を悼み、イスラームのウンマと、世界中で真理を愛し、求めるすべての人々に

哀悼の意を表した。
アーヤトッラー・ハーメネイーは「社会の利益を守ろうとし、不屈の姿勢と原則への忠実さに基づく取り組みの創始者だった」と述べた。
シェイフ・ナイーム・カーセム
レバノンの「ヒズボッラー」の事務総長、シェイフ・ナイーム・カーセムも、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表し、その殺害を人類史に残る「汚点」と呼んだ。



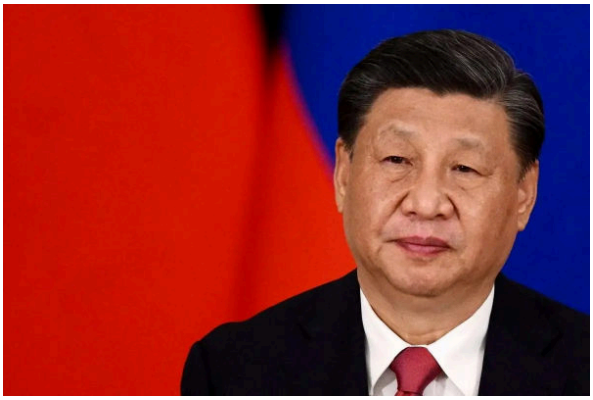
シェイフ・ナイーム・カーセム

レバノンの「ヒズボッラー」の事務総長、シェイフ・ナイーム・カーセムも、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表し、その殺害を人類史に残る「汚点」と呼んだ。



上海協力機構事務総長

ヌルラン・イェルメクバエフ事務総長は、上海協力機構を代表し、アーヤトッラー・ハーメネイーの死去に際して、イラン・イスラーム共和国のマスウード・ペゼシュキアン大統領、アッバース・アラーグチー外相、その他の当局者、市民に哀悼の意を表した。



中国

中国は、アーヤトッラー・ハーメネイーの死について、アメリカとイスラエルの体制を非難し、この行為は国連憲章に反すると述べた。



アフガニスタン

ターリバーン外務省の報道官は日曜日、アメリカとイスラエルのイランへの攻撃を非難し、紛争の拡大に懸念を示した。
元第一副大統領のエスハーグ・ジャハーンギーリーも、日曜日、アーヤトッラー・ハーメネイーの暗殺を非難するメッセージを発表した。この殉教は、国を守るイランとその軍の精神に、新たな血を注ぐものだと述べた。



イラク外相

イラク外相は、イランの外相との電話会談で、イスラーム革命指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表した。
イラクの公式通信社によれば、フアード・フセインは、アッバース・アラーグチーとの電話会談で、イランの国民と政府に弔意を表した。このイラクの高位の外交官は、戦争を終わらせる必要性を強調した。



ヌーリー・アル=マーリキー

政権への復帰を目指すイラクの元首相、ヌーリー・アル=マーリキーは、アーヤトッラー・ハーメネイーの殉教に哀悼の意を表した。
SNS「X」への投稿で、イスラームの覚醒にハーメネイーが果たした役割と、ジハードと自由の道を歩むイスラームの人々への支援を高く評価した。



シェイフ・イーサー・カーセム

バーレーンのシーア派指導者、シェイフ・イーサー・カーセムは、アメリカとイスラエルによるテヘランでのテロ攻撃で、イスラーム革命指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーが殉教したことに哀悼の意を表した。
火曜日の弔意のメッセージで、「今日、民の誇りのためにジハードへの決意を強めることは、イスラームの民の宗教上の義務である」と強調した。

アフマド・アモール・ザバルの二つの詩

イングランド

シャジャラ・タイイバ

神よ、どうか、
彼らに見えるように、どうか、
アメリカは国ではない、
アメリカは病なのだ。
私たちは夢へ向かって歩む、
神の愛に満ちた守りの下で。
私たちの唯一の糧は、希望。
子どもたちの瞳に輝く希望、
その笑い声、軽い通学かばん、
無垢な問いの中にある希望、
学校へ続く石畳での、
小さな跳躍の中にある希望。
私たちは歴史の香りに包まれて進む、
その息づかいは今に降り積もる。
その言葉に耳を澄ますが、
その影に安住はしない。
私たちの夢は、二つの虚無の間に
架かった吊り橋ではない。
私たちの夢は、生きた「聖なる
樹」、
大地に深く根を下ろし、
祈りのうちに枝を空へ伸ばす樹。
百八十の薔薇のつぼみ。
あなたたちは、その血を流した。
百八十。
あなたたちの長い罪の一覧に
消えてゆく数、
死んだ良心の沈黙に
失われた数、
血に染まった子どものノートから
叫びを上げて立ち上がる数。
あなたたちは悪魔の手、
花の血に染まった手。
その花のリボンには、まだ
朝の瑞々しさが輝いている。
校庭はその名を響かせ、
遊び場は沈黙を守る。
神よ、どうか、
彼らに見えるように、どうか、
アメリカは国ではない、
アメリカは病なのだ。



死は、悲しむ時間を
私たちに残さなかった

私たちは、悲しむ頬の涙ではない、
急いで飲み込むべき見出しでもない。

私たちは、話す人の声にある
悲しみの震えではない。
私たちはあなたたちの鏡、
見えない領域へ追われた民の鏡、

羊飼いと群れの間に
散らされた民の鏡。
私たちは、食卓での話ではない、

おしゃべりでも、
明日の新聞のコラムでもない。

私たちは、あなたたちの良心を
洗う場所ではない。汚れた良心、

あなたたち権力が、
聖なる衣に隠れたその日から。

私たちは、廃墟から
芽生える革命、

カリフの寝床で
千年眠る民の、
命の鼓動。

私たちは、捏造された過去の廃墟、
私たちの日々は、
死の物語、

死と、あらゆる言語で語られる出来事、
死とその英雄たち、その作者の死。

どこに、ひとかけらのパンを見いだせるのか、
二十の亡骸に食べさせるために、

自らが徐々に朽ちてゆくのを
見つめる亡骸に。
どこに、一滴の水を見いだせるのか、

私たちの唯一の飲み物が、
子どもたちの涙であるときに。

私たちは、自分の体に
自分の名を書く。

私たちは、体の断片から
死者の名を読む。
生きている者の中に私を見つけた人よ、
私の残ったものを、
持っていってほしい。

これは私の手、ひとりにしないでほしい。
私の体の残りとともに
埋葬してほしい。

私たちは死に追われすぎて、
悲しむ時間がない、

私たちは、その人たちの目を
見つめることに追われている、

間もなく目の前で殺される人たちの目を。
唯一の願いは、
完全な体を埋葬すること、

断片でも、残骸でもなく。
涙を流す時間がないとき、

私たちは道の上で、燃える子どもの肉体を
消火することに追われている。
前に体、後ろに体、

右に一つ、左にも一つ。
今も死にゆく者。
大地は墓、
私たちの死が待っている。

廃墟の上、廃墟の中、
二人の恋人と、愛のまなざし、
苦しみに打ち砕かれて。
彼は言った。「愛で戦争に勝つ」。

「彼女に結婚を申し込む、
死が彼に追いつく前に」。

狂った死が、私たちを取り囲んでいた。
彼は力を振り絞った、

何か言おうとしたが、
何も口にできなかった。
死のほうが速かった、

彼は地に倒れ、弾丸が体を貫いた。
その血は、
花嫁のシャツに染み込んだ。

彼の瞳には、
恐怖の叫びが燃えていた、
世界など、創られなければよかった。

私たちはあなたたちの犠牲者、
私たちの血が、あなたたちの玉座を支
える。
大いなる裂け目の剣から、
殉教者の新たな血まで広がる砂漠。

その下には、石油と血の川が流れる。
無数の人々、
見えないものを知る者たち、

忍耐、墓、服従、
抑圧、女性の体、死を知ること。
数十億の人々は、獅子のように吠え、
論争と混乱の中で騒ぎながらも、

真理を前にすると黙る。
壁に書かれた言葉、

彼らに希望を託すことは、
泥で顔を洗うことと同じだ。



イラン・イスラーム共和国最高指導者
セイエド・アリー・ハーメネイーの殺害に寄せたプーチンの弔意

ウラジーミル・プーチンは、イラン・イスラーム共和国のマスウード・ペゼシュキアン大統領に、同国の最高指導者セイエド・アリー・ハーメネイーとその家族の殺害に際して、哀悼の意を表した。

ロシア国家元首の電報には、次のように記されている。
「人間の倫理と国際法のあらゆる規範を冷笑的に踏みにじる形で行われた、イラン・イスラーム共和国最高指導者セイエド・アリー・ハーメネイーとその家族の殺害に、深い哀悼の意をお受け取りください。
わが国では、アーヤトッラー・ハーメネイーは、ロシアとイランの友好関係の発展と、包括的な戦略的パートナーシップへの引き上げに、個人として多大な貢献をした卓越した政治家として記憶されるでしょう。
最高指導者のご家族と親しい方々、政府、そしてイランのすべての国民に、心からの共感と支援の言葉をお伝えくださるようお願いいたします。」

モスクワおよび全ルーシの総主教キリルは、イラン・イスラーム共和国最高指導者セイエド・アリー・ハーメネイーの殺害に哀悼の意を表した。



大統領閣下、

イラン・イスラーム共和国最高指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーとご親族の殺害に、深い哀悼の意をお受け取りください。

故人は、深い宗教的な信念と強い精神、確固たる人格を備えた、精神的、国家的な指導者でした。

ご家族と親しい方々に、共感と支援の言葉をお伝えください。

慈悲深い神が、ご遺族とイランのすべての国民に、この喪失の苦しみを乗り越える力と、心の強さを与えてくださいますように。

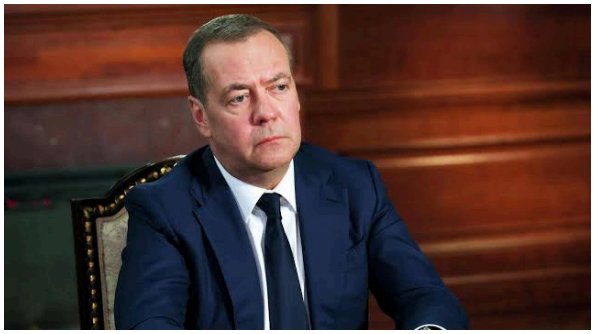
深い哀悼の意を込めて。

ロシアの最高ムフティーで、ロシア・ムスリム宗務局の議長、ラヴィーリ・ガイヌッディンは、革命指導者の殉教に際し、弔意のメッセージを送った。



駐ロシア・イラン大使カーゼム・ジャラーリーに宛て、「私たちは、あなたの国の古い歴史、文化、文明の中で目にするすべてを、涙を浮かべて受け止めています」と記した。

ロシアの最高ムフティーは、さらに述べた。「偉大なイマーム、イラン・イスラーム共和国最高指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイー(至高の神が彼を守られますように)とその同志たちの殉教の報に、私たちは深い衝撃と悲しみを感じています。」



メドヴェージェフ、アリー・ハーメネイーの死に弔意

アリー・ハーメネイーの告別式のためイランを訪れた、ロシア安全保障会議副議長のドミトリー・メドヴェージェフは、テレグラムのチャンネルで、イスラーム共和国最高指導者の殉教に哀悼の意を表した。
投稿には「ロシア連邦の指導部と国民を代表し、イラン・イスラーム共和国最高指導者、大アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーの殉教に、深い哀悼の意を表します」と記されている。
また、この計り知れない喪失に際し、ロシア連邦はイラン国民とともに悲しんでいると強調した。



アルメニアのニコル・パシニャン首相は、同国の指導部と市民に犠牲者が出たことを受け、イランのマスウード・ペゼシュキアン大統領に弔意を伝えた。

メッセージでパシニャンは、エレバンではイランをめぐる事態の進展を大きな懸念をもって見守っていると述べ、犠牲者に哀悼の意を表した。故アリー・ハーメネイー最高指導者が、アルメニアとイランの関係の発展に個人として果たした役割は、アルメニアで記憶されると強調した。声明には「この困難なときに、中東で平和と安定が速やかに確立されることを願っています」と記されている。また、イラン国民の平和と忍耐を祈った。



アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領は、イランのアリー・ハーメネイー最高指導者の死去に際し、マスウード・ペゼシュキアン大統領に書簡を送った。

「イラン・イスラーム共和国最高指導者アーヤトッラー・アリー・ハーメネイーの悲劇的な死去の報に、私たちは深く悲しんでいます。この大きな喪失に際し、あなたとご遺族、友好国イランの国民に心からの哀悼の意を表し、忍耐と不屈の心を祈ります。アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーは、長年、イランの国家と社会に重要な役割を果たし、同国の政治と宗教において特別な地位を占めていました。その死は、イランにとって大きな損失です。この困難な日に、友好と兄弟愛で結ばれたイラン国民の平和、安定、繁栄を願っています」と書簡に記されている。



ウズベキスタン大統領の哀悼

3月2日、タシケントのイラン大使館は、ウズベキスタンのシャヴカト・ミルジヨエフ大統領名義の弔電について発表した。電文では、「イスラーム革命指導者アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーの殉教に際し、哀悼の意を表する」と述べている。

「長年にわたる実り多い活動を通じて、故人はイランの国家基盤の強化、社会の安定の確保、国民の価値観の維持に大きく貢献した」と書簡には記されている。



タジキスタン大統領の哀悼

電文では、「故アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーが、タジキスタンとイランの包括的で建設的な関係の発展、そして古代文明を担う両国民の協力の強化に果たした立派な貢献」に言及している。ラフモン大統領の弔電には、こう記されている。「この悲劇の日々に、タジキスタン国民の悲しみと共感を兄弟であるイラン国民に伝え、神のもとで魂の安息を得たすべての犠牲者に永遠の慈悲を、その家族と親しい方々に、この大きな悲しみに耐える力を、至高の神に祈ります」。



カザフスタン外務省の哀悼

カザフスタンでは、同国外務省が哀悼の意を表した。

「最近の悲劇的な出来事により、子どもを含む民間人と、イスラーム共和国の最高指導部の方々が命を失ったことについて、イラン国民に深い哀悼の意を表します」と声明は述べている。



トルクメニスタン現大統領の父からの哀悼

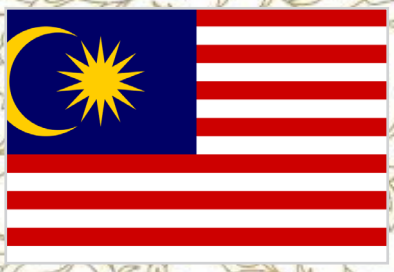
現大統領の父は電文の中で、アリー・ハーメネイーの死去に深い哀悼の意を表し、「故人の魂が楽園にありますように」と祈った。





ディン・シャムスディン
インドネシアの著名なイスラーム思想家・活動家たちより

私たちインドネシア国民は、イスラエルとアメリカ合衆国の抑圧と侵略によって、殉教者たるイマーム・ハーメネイーが殉教されたことに、深い哀悼の意を表します。他国の指導者を殺害したこの行為は、きわめて卑劣で残酷なものであり、私たちはこれを拒絶し、非難しなければなりません。そのため、インドネシアの多くの人々はイランに共感し、イスラエルとアメリカによるイランへの攻撃を、他国の主権に対する侵略として非難し、拒絶しています。私たちは国際連合に、イスラエルとアメリカによる国際法と人権の侵害に対して措置を講じるよう求めます。また、イスラーム協力機構(OIC)に、緊急会合を開催し、イスラームの連帯のもとで断固たる行動を取るよう求めます。さらに、インドネシアのプラボウォ・スビアント大統領に、「平和委員会」から脱退するよう求めます。ドナルド・トランプが設立したこの平和代表団は、実際には、イスラエルがパレスチナを支配するために自由に行動できるよう、意図的に設けられた隠れみのだからです。私たちは皆、イランを支持しています。イラン・イスラーム共和国を支持し、イランがテルアビブを破壊することで応じ、必要であればネタニヤフを殺害して報復することを願っています。全能の神が、私たち、イスラーム世界、イラン国民、そして世界中のすべてのムスリムと信仰者に、真実と正義の側に立ち、イスラエルの侵略と残酷な行為に立ち向かう力を授けてくださいますように。皆さまに平安と神の慈悲がありますように。





ムハンマド・ファイサル
アブドゥル・アジズ
マレーシア弁護士会会長、
法律家

アーヤトッラー・ハーメネイーの主要著作の一つ、『文化侵略』(Al-Ghazw al-Thaqaf: Al-Muqaddamat wa al-Khalifayat al-Tariikhiyya)は、きわめて重要で影響力のある貢献と評価できる。彼の「文化戦争」という概念は、一連の講義と公の演説に基づいている。彼は、最も激しく決定的な対立は、軍事力によってではなく、文化の領域で起こると考えていた。文化戦争は、間接的に、しばしば気づかれない形で作用する、巧妙な政治的・経済的強制として説明される。その主たる目的は、社会を外国の支配に従属させることであり、その手法は、歴史的にオリエンタリズムの企図と結びついてきた知的・文化的な規範の押しつけに類似している。この概念によれば、文化戦争は三つの主要な段階を経る。第一に、宗教的信念の浸食。第二に、人々を革命に根ざす自己認識と信念から切り離すこと。第三に、恐怖をあおり、空虚な言い訳や心理的な抑制を生み出すことで、意義があり人々を鼓舞する成果を社会が実現する力を弱めることである。これらの考えを身につけることで、イラン社会は新たな形の支配への抵抗を組織し、西側の影響から離れた自立と独立を達成した。この構想は、主権、文化の一体性、集団としての尊厳を守ろうとする世界各地の社会にとって、励みとなり得る。



アドルフォ・モルガンテ教授
イタリアの宗教間対話の教授

アメリカとイスラエルによる武力侵略のさなか、イラン・イスラーム共和国最高指導者の殉教の知らせが私たちに届きました。この侵略は、国家テロという文脈を除いては、まったく正当化できないものでした。

神への信仰における友と呼ぶことのできる皆さまに、心から哀悼の意を表したいと思います。そして、イラン国民の苦しみが、勇気をもって正当な権利を守る新たな章につながるよう、心の底から切に願っています。

最高指導者の殉教に際し、まず自分自身に、殉教の直前に聖パウロ(タルソスのパウロ)が語った言葉を思い起こさせたいと思います。

「私は良い戦いを戦い抜き、走るべき道を走り終え、信仰を守り通しました。今や、義の冠が私のために用意されています。正しい裁き主である主が、かの日にそれを授けてくださいます。私だけでなく、主の再来を愛をもって待ち望むすべての人にも」。

最高指導者にも、まさに同じことが待っているに違いありません。

主の再来まで、聖なる殉教者たちが私たちを導いてくださいますように。

イスラーム革命の最高指導者とミナーブの子どもたちの殉教

国際法と人権に対する意図的な侵害

















1404年3月21日の朝、血に染まったピンクの通学かばんの写真が衝撃とともに共有され、破壊的な惨事の規模を示した。アメリカ軍とイスラエル軍によるイラン領内への共同攻撃の際、ミナーブ(ホルモズガーン州)のシャジャラ・タイイバ小学校がミサイル攻撃を受けた。攻撃は授業時間中に起こり、7歳から12歳までの女児168人が死亡した。

当時のアメリカ大統領ドナルド・トランプは、攻撃の責任を否定し、イランに責任を転嫁しようとした。しかし、この主張は現場の証拠や技術的な調査結果と明らかに矛盾している。西側の複数の主要メディアは、攻撃の責任はアメリカ政府にあるとした。CNNは、ミナーブの学校への致命的な攻撃はアメリカによるものであり、破壊の規模は精密誘導弾の使用を示していると報じた。『ニューヨーク・タイムズ』もまた、



ミナーブの小学校への攻撃はアメリカによるものだと報じた。

ミナーブの児童たちの殉教は、人々に恐怖と戦慄を植えつけようとする暴力が続いていることを、痛ましく思い起こさせる。イラン・イスラーム共和国最高指導者アーヤトッラー・ハーメネイーという著名な人物が殺害され、殉教した後に起きたこの不吉な行為は、敵がイラン国民に恐怖を植えつけるため、計画的に企てたものと見られる。罪のない子どもたちを標的にした敵は、イラン社会を恐怖に陥れ、その基盤を揺るがし、テロを武器として信仰と不屈の精神を弱めることで、目的を達成しようとした。このような凶悪な行為は、国家の核心を攻撃し、人々の間に絶望を広げるためのものである。この状況で何よりも大切なのは、社会が団結してこれらの犯罪に立ち向かい、連帯する精神の力こそが、不和と破壊をもたらそうとする企てに対する最大の防御であると認識することである。



正義の響き:
アフリカを中心に据える
イマーム セイエド・アリー・ハーメネイーの構想

シェイフ・アブドゥッラー・マクウィンジャ
ジンバブエのアフル・アル=バイト(彼らに平安あれ)
イスラーム指導評議会会長



アフリカとイラン・イスラーム共和国の関係は、しばしば外交、経済、地政学の観点から捉えられる。これらの側面は重要だが、関係の根底にある、より深い道徳的・思想的な基盤を十分に説明するものではない。国家間関係の背後には、正義、人間の尊厳、抑圧された人々との連帯に対する深い献身がある。それは、イスラームの教えに根ざし、イスラーム革命の光のもとで支えられてきたものである。

したがって、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーのアフリカとの関わりは、単なる現代の政治戦略として捉えるべきではない。それはむしろ、聖なる預言者(彼に平安あれ)に始まり、イマーム・ルーホッラー・ホメイニーによってよみがえり、世界各地で抑圧への抵抗を鼓舞し続ける道徳的な伝統の延長にある。
聖クルアーンには、こう記されている。
「われらは、地上で弱く、抑圧された者たちに恩恵を施し、彼らを指導者とし、継承者としようとした」(「物語」章、第5節)。
このクルアーンの視点が、イスラームにおける正義の理解の基礎を成している。

預言者に由来する基盤:
人種の平等と人間の尊厳

イスラームとアフリカの連帯を論じる際には、まず預言者ムハンマド(彼に平安あれ)の教えから始めなければならない。その使命は、根深い人種的・社会的な序列の制度に挑むものだった。
この変革を象徴する最も力強い存在の一人が、アフリカ出身の奴隷ビラール・イブン・ラバーフだった。彼はイスラームで最初のムアッズィン(礼拝への呼びかけを行う者)に任命された。部族主義と人種差別の上に成り立つ社会で、ビラールが高い地位に就いたことは革命的な宣言となった。人間の価値は、人種、肌の色、出自ではなく、誠実さと道徳的な人格によって測られると示したのである。
聖クルアーンは、次のように強調している。
「人々よ、われらはあなたがたを一人の男と一人の女から創り、互いに知り合うように、諸民族と諸部族に分けた。神の御前で最も尊ばれるのは、あなたがたのうち最も正しい者である。まことに神は、すべてを知り、すべてに通じておられる」(「部屋」章、第13節)。
こうした教えを通じて、イスラームは民族や人種の違いを超えた、人間の尊厳についての普遍的な理念を打ち立てた。この預言者の遺産は、正義と連帯に対する現代のイスラームの姿勢を、今も形づくっている。

イスラーム革命と正義の概念の再考

1979年のイスラーム革命は、イスラーム政治思想の復興における転換点となった。イマーム・ルーホッラー・ホメイニー(RA)に率いられた革命は、国内の専制だけでなく、世界的な支配と搾取の体制にも挑んだ。
イマーム・ホメイニーの言説の中心にあったのは、「傲慢な者たち」(傲慢な暴君)と「抑圧された者たち」の区別だった。この概念は、政治分析の焦点を、権力や利害の問題から、正義と道徳的責任の問題へと移した。
イラン・イスラーム共和国がこの原則を重んじていることは、建国当初から明白だった。イランの初期の外交上の決定の一つは、政治的・経済的な負担にもかかわらず、南アフリカとイスラエルのアパルトヘイト体制との関係を断つことだった。革命は解放運動を公然と支持し、植民地主義、人種差別、覇権に対する闘争の同志として、自らを位置づけた。

その顕著な例が、アメリカのスパイ拠点の占拠である。このとき、イマーム・ホメイニーは、アメリカ人の女性と黒人の人質を解放するよう命じた。この行動は、抑圧する者と抑圧される者を原則に基づいて区別し、弱い立場の人々を守るというクルアーンの教えを体現するものだった。
イマーム・ホメイニーが毎年ハッジに寄せたメッセージには、アフリカの人々を含む、世界中の抑圧された民の運命への深い関心が表れていた。イスラーム革命の世界的な使命を強調して、





彼はこう述べた。「私たちの呼びかけは、アフリカへ向けられている。世界の抑圧され、飢え、困窮する人々へ向けられている」。これらの言葉でイマームは、植民地主義、人種差別、搾取に対するアフリカの闘争が、正義と自由を求める、より大きな世界的闘争の不可分の一部であると強調した。
この文脈では、その後のイマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーのアフリカとの関わりは、革命の伝統からの逸脱ではなく、その最も自然な継承の一つとして捉えられる。

イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの思想におけるアフリカと革命意識

イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの世界観の中で、アフリカは正義を求める世界的な闘争において独自の位置を占める。この大陸の植民地的搾取と抵抗の歴史、そして自決の理想は、帝国主義と覇権に対する彼の広範な批判と密接に結びついている。
ジンバブエを含むアフリカ諸国との彼の関わりは、外交上の協力を超えるものだった。それは、外国の支配への抵抗と、政治的、経済的、文化的な独立を求める闘争という、共通の歴史的経験に根ざしている。
ジンバブエの反植民地闘争は、きわめて重要な接点である。同国が主権、自立、外圧への抵抗を重視する姿勢には、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの政治思想の多くの重要な主題が反映されている。この共通の経験は、アフリカとイスラーム革命の間の、知的・道徳的な対話の豊かな土壌となる。

トマ・サンカラ、ネルソン・マンデラと抵抗をめぐる社会的な文献

トマ・サンカラ大尉(西アフリカの革命指導者)の思想的・政治的遺産は、世界的な不正義に対するイマーム・ハーメネイーの批判的な視点と驚くほど似ている。経済的独立を重視し、支配の道具となる対外債務を拒否したサンカラの姿勢は、新植民地主義的な従属構造に対するイマーム・セイエド・

アリー・ハーメネイーの抵抗と、多くの点で響き合う。
両指導者は、真の独立を、尊厳と自決に不可欠なものと考えていた。両者とも、発展途上国を外国の権力に従属させようとする体制に反対していた。
こうした類似点は、単なる理論上のものではなかった。史料には、当時イラン大統領だった若きアーヤトッラー・アリー・ハーメネイーと、トマ・サンカラ大尉との重要な会談が記されている。それは、抑圧された人々の解放に対する共通の献身を示すものだった。
同様に、ネルソン・マンデラの反アパルトヘイト闘争も、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの正義と抵抗に関する言説に深く通じる価値観を体現していた。マンデラ大統領が、尊厳、不屈の精神、解放闘争への人々の参加を重視したことは、イスラーム共和国で敬意を集めた。
刑務所から釈放された後にテヘランを訪れた際、ネルソン・マンデラは、イスラーム共和国がアパルトヘイトに一貫して反対してきたことを公に認めた。こうした出来事は、抑圧に対する連帯が、思想や文化の境界を超えられることを示した。
サンカラとマンデラは世俗的な政治の伝統の中で活動していたが、彼らの闘争には、クルアーンが重視する正義と抑圧された人々の保護に深く通じる倫理的原則が表れていた。

マルコムXとイスラームの抵抗の世界的な広がり

イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの思想と、国外のアフリカ系アメリカ人社会とのつながりは、おそらくマルコムXの演説に最も鮮明に表れている。
アーヤトッラー・ハーメネイーは、マルコムXの殉教を繰り返し追悼し、そのために「ハムド」章を読誦するよう呼びかけたこともある。こうした行動は、マルコムXを、抵抗と自己犠牲という、より広いイスラームの文脈に象徴的に位置づけている。

マルコムXの思想の発展は、アメリカの黒人の闘争を、地域的な公民権運動から、人間の尊厳を求める、より広い世界的闘争の一部へと変えた。メッカへの巡礼後、彼は人種の境界を超えた普遍的な人類観を受け入れた。その一方で、抑圧がどこに存在しようとも、それに立ち向かう決意を揺るがせなかった。

この観点から、マルコムXは、共通の道徳的・政治的意識のもとで、アフリカ、そのディアスポラ、イスラーム世界をつなぐ重要な橋渡し役と見なされる。

現代イスラームの視点と言説におけるアフリカ

今日の言説で、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーは、形成されつつある世界秩序の主要な担い手として、ますますアフリカを位置づけている。大陸を外部の影響を受動的に受ける存在と見るのではなく、国際関係、経済発展、文化の刷新を形づくるアフリカの可能性を強調している。
南南協力、思想的独立、文化的自立への彼の支持は、世界的な権力構造によって長く周辺に追いやられてきた国々の力を高めようとする、より広い献身の表れである。イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの見方では、アフリカは歴史の周縁から中心へと進んでいる。

結び

イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーのアフリカとの関わりは、従来の地政学の枠組みだけでは適切に理解できない。それはむしろ、正義、人間の尊厳、抑圧された人々との揺るぎない連帯を重視する、より広いイスラームの道徳的伝統の中で捉えるべきである。

ビラール・イブン・ラバーフから、マルコムX、トマ・サンカラ、ネルソン・マンデラに至る言説を読み直すと、支配への抵抗と人間の尊厳への献身を重視する、国境を越えた道徳的意識が見いだされる。この文脈で、アフリカとそのディアスポラは、周辺的な存在ではなく、正義と刷新を求める世界的闘争の主要な担い手として現れる。さらに、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーの目には、アフリカは、抑圧された人々と支配勢力との現代の闘争の中心にある。抑圧された人々を擁護し続け、支配の体制に粘り強く抵抗する彼の姿勢は、イランの国境を越えて人々を鼓舞する存在となった。

そのため、傲慢な勢力によってもたらされた彼の殉教は、イランだけの損失ではない。アフリカにとっても大きな損失である。大陸が求める尊厳、主権、正義は、彼の言葉の中に真の擁護者を見いだしていたからだ。それはまた、世界中の抑圧された人々にとっても損失である。彼らはその指導に、困窮する人々を支え、専制に抵抗する預言者の使命の継承を見ていた。しかし、歴史は、殉教が正しい大義を打ち砕くのではなく、しばしば強めることを証明している。ビラール・イブン・ラバーフ、マルコムX、トマ・サンカラ、ネルソン・マンデラ、イマーム・ホメイニー、そしてイマーム・ハーメネイーを結びつけた理念は、アフリカとその外で、正義、独立、人間の尊厳を求めて闘う新たな世代を、今も鼓舞し続けている。



イマーム
セイエド・アリー・ハーメネイー

(アッラーがその清らかな魂を
聖別されますように)
フサインの精神を
よみがえらせた者



マリア・パメラ・J・サゴロ

研究者サゴロ、
研究者・フィリピン=イラン
女性協会事務局長



アーシューラーの日、自分を殺そうとする3万人の軍勢を前に、イマーム・フサイン(彼に平安あれ)は、最後にこう伝えた。「いかなる宗教も信じず、審判の日も恐れないのなら、少なくともこの世では自由でありなさい(抑圧と傲慢の束縛から解き放たれなさい)」。

自由を愛する心は、人間に本来備わっている。そのため、解放運動は常に人類の歴史の中に織り込まれてきた。多くの革命家が目標を達成したものの、時の試練に耐える遺産を残した者は、わずかである。

故イラン・イスラーム共和国創設者イマーム・セイエド・ルーホッラー・ホメイニーの後継者であり、故最高指導者であるイマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーは、革命家であり卓越した指導者だった。その遺産は、深刻な課題にもかかわらずイラン国民が繁栄し続ける力となるだけでなく、人類が真の自由に至るための揺るぎない道を示している。それは、人間の可能性が完全に開花するのを妨げる現世の束縛からの自由、すなわち、魂が神の聖性と一つになることである。この遺産は本質的に、「フサインの精神」を制度として根づかせることにほかならない。人間創造という神の意図を完成させるため、神が一人ひとりに宿らせた精神である。

「平伏」章第9節で、アッラー(栄光と偉大さはかれに属する)はこう述べる。「そしてかれは、それ(生命をもたない種)を整え、それに御自身の(聖なる)霊を吹き込み、あなたがたに聴覚と視覚、そして心(感情と知性)を授けた。だが、あなたがたはほとんど感謝しない」。イマーム・フサイン(彼に平安あれ)は、自分が非物質的な存在であり、神の本質から生じた火花が、一時的に物質的な肉体に宿っているのだと悟った。
彼は、アッラー(栄光と偉大さはかれに属する)が、人間への愛と慈しみから、一人ひとりの存在に、創造主とその顕現を自然に求める内なる仕組みを備えたのだと悟った。それは、人間の非物質的な真実にふさわしい超越的なもの、たとえば名誉、勇気、尊厳、独創性に向かう傾向であり、不正、傲慢、抑圧、専制、不義に対する生来の嫌悪でもある。

こうした資質は、イスラームの預言者(彼に平安あれ)の孫、イマーム・フサイン(彼に平安あれ)に現れた。彼は専制に立ち向かい、勇気、原則への揺るぎない献身、すべてを犠牲にする覚悟を示した。そしてカルバラーの平原で示したように、抑圧の屈辱よりも、尊厳を保って死ぬことを選んだ。
「撒き散らすもの」章第56節で、アッラー(栄光と偉大さはかれに属する)は、人間を創造した理由を明確に述べている。「われがジンと人間を創ったのは、ただわれ(のみ)を崇拝させるためである」。

また、「雌牛」章第30節で、アッラー(栄光と偉大さはかれに属する)はこう述べる。「[思い起こしなさい。]あなたの主が天使たちに、『われは地上に代理者を置こうとしている』と言われたとき、彼らは言った。『私たちがあなたを讃美しているのに、そこで混乱を起こし、血を流す者を置かれるのですか』。アッラーは言われた。『われは、あなたがたの知らないこと(人間創造の秘密)を知っている』」。
イマーム・フサイン(彼に平安あれ)のハディースには、こうある。「アッラーは、御自身を知るために被造物を創られた。かれを知ると、それはかれを崇拝した。かれを崇拝すると、それはかれのみを崇拝した」。

イマーム・フサイン(彼に平安あれ)が、「神を知るとは、どういうことですか」と尋ねられたとき、彼はこう答えた。「あらゆる時代の人々にとって、神を知るとは、その時代のイマームを知ることである。彼への服従は、人々にとって義務だからである」。このように、イマーム・フサイン(彼に平安あれ)は、イマームが一神教の一部であると説いた。時代のイマームの目的は、神を知り、かれを崇拝することを通じて、人間を完成へ導くことである。
したがって、フサインの精神とは、万有の主を知り、かれに従う精神にほかならない。そのようにして、地上のかれの代理者、「時代のイマーム」を認め、彼に従うのである。
イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイー(アッラーが彼を嘉されますように)は、イマーム・フサイン(彼に平安あれ)を、ただ記憶し、悼むだけではなく、人々が彼のようになれるよう、模範として認め、従うべきだと考えていた。
イスラーム革命の指導者として、彼はフサインのこの精神を、イスラーム共和国の体制を支えるさまざまな柱に根づかせ、自らの人格と行動に体現した。それは生き方に、そして最期の瞬間にさえ現れていた。

この精神をイスラーム共和国の体制に根づかせることで、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイー(アッラーが彼を嘉されますように)は、さまざまな分野で、不正と専制への抵抗を高めた。政治的な抵抗では、外国の威嚇や要求に譲歩せず、政治的独立を確保し、力を持つことを重視した。経済的な抵抗では、自国の資源を発展させ、外国の権力への依存を減らし、制裁の影響を和らげる重要な政策を強調した。文化的な抵抗では、西側と近代の文化侵略に対し、イスラームと国家のアイデンティティーを守り、強めることに力を注いだ。安全保障と軍事的な抵抗の分野でも、地域の脅威と介入に対抗するため、抑止力を築き、「抵抗の枢軸」を支える必要性を強調した。

悪魔的な勢力が支配する世界で、フサインのこの精神が現れることは、アメリカ合衆国にとって到底受け入れられない。それゆえイランは、あらゆる方向から、絶え間ない数多くの攻撃の標的となった。
イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイー(アッラーが

その清らかな魂を聖別されますように)は、十二人の無謬のイマームの地位を固く信じ、それに従い、常にイマーム・フサイン(彼に平安あれ)の言葉に基づいて行動した。「私のような者は、彼(ヤズィード)のような者に忠誠を誓わない」。したがって、彼が全面的な忠誠を捧げるのは、イマーム・マフディー(アッラーが彼を嘉されますように)だけである。そのため、アメリカがイランのすぐ目の前に全軍事力を展開しても、イマーム・ハーメネイー(アッラーが彼を嘉されますように)は、決してトランプに屈しなかった。
フサインのこの精神こそが、イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイー(アッラーが彼を嘉されますように)に、不朽の言葉を語らせたのである。「私たちが死ぬかどうかは重要ではない。イランは重要ではない。重要なのはイスラームである」。イマームは、人間を解放するために神が遣わされた道筋を、世界に示した。それは、この世の束縛からの解放であり、来世で高みへ昇る自由である。



出典:

https://journals.isu.ac.ir/article_77726_4ba2ad6d881d56b96348994e45768789.pdf
https://english.khamenei.ir/news/5396/Ayatollah-Khamenei-Announces-General-Policies-on-the-Economy
https://english.khamenei.ir/news/5396/Ayatollah-Khamenei-Announces-General-Policies-on-the-Economy

卓越した人物の昇華:
守護者が殉教の山から降りてくるとき

ムハンマド・アル=バフル・アル=ミフダール

イエメン・シャブワ州
計画局総局長



この痛ましい喪失を前に、言葉は沈黙し、その重みに頭を垂れる。書簡は悲しみの帳の向こうへ退いてゆく。これは、ただの別れではない。時の壁に生じた亀裂であり、長い間、心に確信のぬくもりを与えてきた太陽の落日である。今日、私たちは、尊厳の体現者、抵抗の父、抑圧された人々の拠り所である、尊きアーヤトッラー、イマーム・セイエド・アリー・ホセイニー・ハーメネイーに別れを告げる。この現世の山を降り、万有の主に選ばれた殉教者として昇ってゆかれた方に。

この痛ましい喪失を前に、言葉は沈黙し、この喪失の重みに頭を垂れる。書簡は悲しみの帳の向こうへ退いてゆく。一人ひとりの魂に深く根を下ろす痛みである。

私たちの抵抗そのものに織り込まれている人を失ったことを、どう書けばよいのか。今日、私たちの心を締めつける悲しみは、絶望のしるしではない。それは「信仰者の涙」である。そう、心は血を流し、魂は痛み、引き裂かれる。かつて傲慢の柱を震わせた声と、広場に集まった革命家たちに確信と安らぎをもたらしたまなざしを失ったからである。イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイーは、国民という体に現れた精神だった。約束を決して破らず、降伏のために頭を垂れることのない指導者だった。彼は「ホラーサーンの人」であり、武器ではなく忍耐によって、言葉の雄弁さではなく英知によって、シオニズムの基盤を揺るがした。

この悲劇は、不屈の精神を試すものである。私たちは、親を失ったような苦い思いを抱き、この悲しみが自由な心のすべてを限りなく覆うときにも、この指導者が愛した山々の頂に、尊厳をもって立つ。私たちは恐れない。清らかな血は勝利の燃料であると、彼の教えが教えてくれたからだ。私たちは退かない。彼が自ら切り開いた道は、抵抗する人々の心に、神聖な信条として刻まれているからだ。私たちは敗れない。神の愛に基づいて幾世代を育む指導者は、



真に失われることはないからだ。彼は、すべての銃と、掲げられた拳を通じて広がり、生き続ける。この苦しみは、不屈の精神を試すものである。今日、痛みと苦しみが支配していても、彼が私たちに与えた決意が、明日を決めるからだ。闘争、姿勢、粘り強さ、勇気において私たちが見たように、彼は「待望のイマームの使者」であり、その代理だった。人々に愛され、傷を癒やした彼は、今、衣を畳み、真実の道で証人であると同時に殉教者となる。

別れの哀歌:

解放された奴隷たちの父よ。あなたはこの時代の「神の獅子」であり、真実を求める中で非難を恐れなかった。私たちの慰めは、あなたが望んだとおり、退くことなく前へ進む殉教者として亡くなられたことにある。私たちの励みは、あなたの手から尊厳と不屈の精神の真髄を受け継いだ人々を残されたことにある。嵐の中で、力と不屈の精神をいっそう強める人々を。

敬虔さと誠実さを体現された方を失った後、神があなたと私たちに豊かな報いを授けてくださいますように。悲しみの中で黙するすべての信仰者と、別れの涙によって美徳がしおれたすべての革命家を、神が祝福してくださいますように。私たちは、自分たち自身と、私たちの主であり師である時代の主(彼に平安あれ)の祝福された御前に、哀悼の意を表します。

服従と依存の泥沼に沈む民には、慰めはない。彼らは、自由な民に道を示す灯台を失う意味も、殉教者の血から生まれる忠誠の言葉も理解しない。

私たちの誓いは変わらない。

指導者よ、安らかに眠ってください。あなたが掲げた旗は決して倒れず、あなたの闘争が切り開いた道は決して失われないからです。私たちは、悲しみの涙であなたを悼み続け、固い決意であなたへの忠誠を新たにし、あなたが幾度も約束したあの暁に至るまで、その足跡に従います。

あなたの清らかな魂に平安あれ。そして、審判の日まで続く、あなたの道に平安あれ。





夜明けと日暮れの道から、私を解き放ってください

イマーム・セイエド・アリー・ハーメネイー

次の心を打つガザルは、現代イランを代表する学者であり政治指導者でもある、アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーによって書かれました。この胸に迫る詩で、作者はシーア派の第8代イマームとして崇敬されるイマーム・レザーに語りかけ、深い精神的な憧れと献身を表しています。豊かなイメージと雄弁な詩句を通して、イマームに導きと慰めを請い、死後には聖なる場所であるイマーム・レザー廟に葬られたいという願いを間接的に明かしています。このガザルは、ハーメネイー師と神の慈悲、そしてイスラームの遺産との深い結びつきを映し出し、精神的な安らぎの場と神との一体化を求める、時を超えた主題を描いています。それぞれの対句には謙虚さとイマームの執り成しを求める祈りが満ち、シーア派の精神性の本質と、信徒の生活におけるイマームの存在の神聖さが表れています。ハーメネイー師の雅号はアミーンです。

夜明けと日暮れの道から、私を解き放ってください
ひとまなざしと信頼で、私の務めを成し遂げてください。
美の優雅さを記した、もう一枚の頁を開き、
この未完の詩が追い求めるものに、一行を加えてください。
おお、酒を注ぐ者の面影よ、神の光よ、
これほど渇き求める私に、時にはまなざしを向けてください。
おお、心を治める者よ、その魅惑の力で、
素朴さと夢の世界の間で、心を調和させてください。
レザーの歓びの王国へと至る道を示し、
微笑みの甘い光で、この疲れた魂を鎮めてください。
今こそ、切なさに差し伸べられた幾千もの手を見つめ、
慈しみを育む者にふさわしく、手を差し伸べてください。
この家は、火と水のせめぎ合いの中心、
あなたの優しい命の雨で、傷ついた私の心を癒やしてください。
あまりにも長く、おおアミーンよ、あなたは遠くにいた。
追放の日々はもう十分。愛する心のもとへ戻りなさい。
私は知っている。あなたは困窮し、貧しく、孤独であることを。
レザーの慈しみ深い聖廟から、身近な人々を導きなさい。
天使たちの群れが潮のように行き来する、その場所で、
片隅を見つけ、時の終わりまで、そこにとどまりなさい。

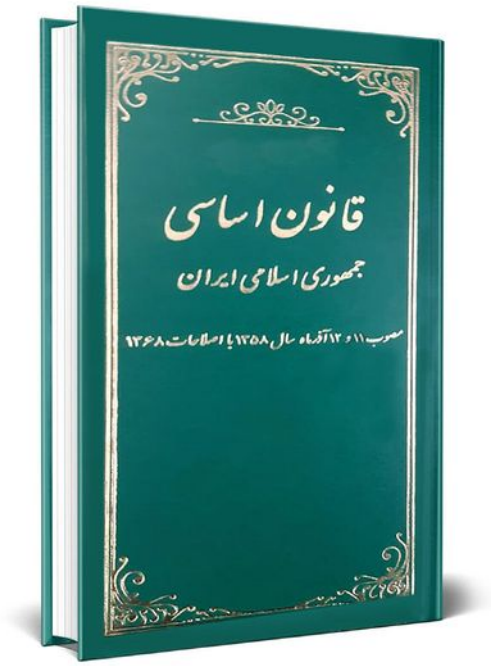


「亡くなった指導者の後継者を選定する憲法上の手続きの実施」

イラン・イスラーム共和国の指導者専門家会議の議員は、国民の直接投票によって選ばれます。この会議は、公正さと敬虔さで知られる、法学、社会、行政、学術の各分野の専門家や有識者で構成されています。

アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーについて詳しくは、「Echo of Islam」のリンクをご覧ください。





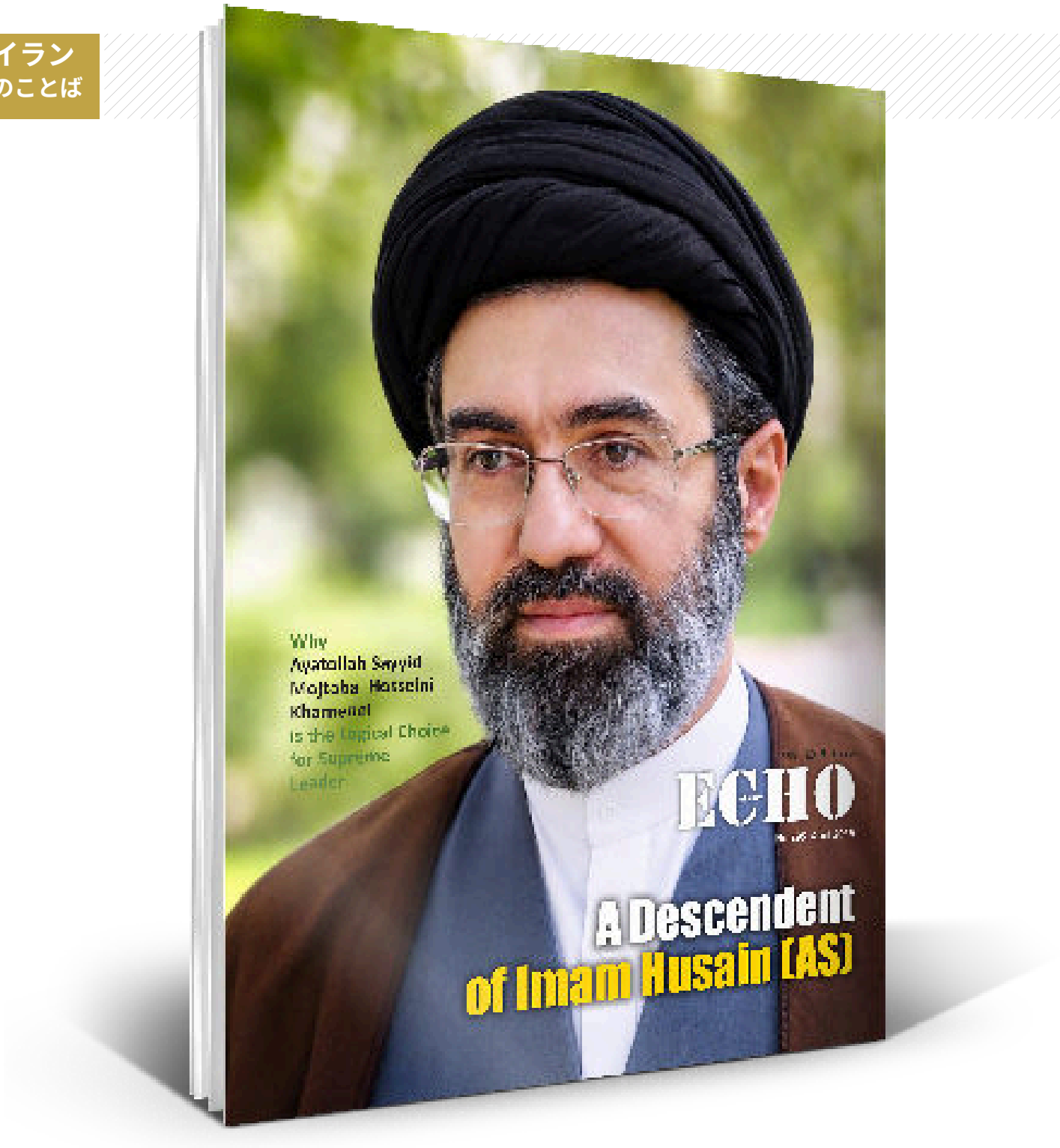
イラン憲法第5条、第107条、第109条に基づき、この会議は適格な候補者を審査して指導者を見いだし、選定するとともに、指導者が引き続きその職を担うための条件を継続的に監視する責任を負っています。

イランの指導者が死亡した後、米国による度重なる攻撃によって、国内の安全保障と戦争をめぐる状況は深刻化しました。そのため憲法に従い、大統領と司法府の長を含み、公益判別評議会によって選定された3人の暫定指導評議会が、一時的に国家の指導を担いました。

しかし、指導者専門家会議の会合は、イスラエルおよび米国の政権による脅威と繰り返される爆撃のもと、きわめて困難な状況で開かれました。会議は適格な候補者を審査した後、3分の2を超える票で新たな指導者を選定しました。

イラン憲法第109条によると、指導者に求められる条件と資質には、ファトワーを発するための学識と法学上の能力、イスラーム国家の指導に必要な公正さと敬虔さ、適切な政治的・社会的理解、思慮深さ、勇気、行政能力、そして指導に十分な権限が含まれます。

専門家会議は長年、多くの後継候補者を検討してきましたが、指導者が殺害され、殉教した後、各候補者の資質を憲法上の条件と照合し、複数の選択肢の中からアーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーを選びました。彼は亡くなった指導者の次男ですが、父は自らの後継について、専門家会議のいずれの議員とも、肯定的にも否定的にも話し合ったことがなく、この可能性を考えていた人はわずかでした。しかし指導者の死から8日後、さまざまな調査、議論、会合を通じて、専門家会議は最終的に新たな指導者を選定し、3分の2を超える票を得た、イスラーム革命およびイラン・イスラーム共和国の新たな指導者として発表しました。その後、イラン国内外の有識者と国民による、広範かつ数多くの忠誠の誓いによって、この声明の力は倍増しました。



アーヤトッラー・セイエド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイーについて詳しくは、「Echo of Islam」のリンクをご覧ください。



歴史の頁がめくられるとき、
あなたたちは
その正しい側に立っています。

2024年5月30日、米国の大学でパレスチナを支持する学生運動が激しい弾圧を受けるなか、イマーム・ハーメネイーは書簡を送り、この時代について、まったく異なる新たな見方を示しました。師は学生たちに、もはや周辺で支援するだけの存在ではなく、「抵抗戦線」の一翼を形成しており、その闘いは名誉ある闘いだと伝えました。また、クルアーンに親しむよう勧め、彼らの覚醒を、世界的な宣伝の壁を打ち破ってきた、長く続く真理の流れと結びつけました。



特別版
「最後の息まで」

殉教者イマーム・ハーメネイーの生涯、闘争、そして遺産。
殉教者イマーム・ハーメネイーとは誰だったのでしょうか。
投獄、追放、戦争、指導者としての歩みに形づくられたその生涯は、どのようにして、信仰、抵抗、不屈の精神という消えることのない遺産を残したのでしょうか。



殉教者ハーメネイーの
パレスチナ観

第1部:パレスチナ――全人類の理想

「殉教者ハーメネイーのパレスチナ観」は、パレスチナの大義に関する、殉教者イマーム・ハーメネイーの見解を取り上げたメディア作品です。



殉教者ハーメネイーの
パレスチナ観

第2部:イスラーム諸国の責任

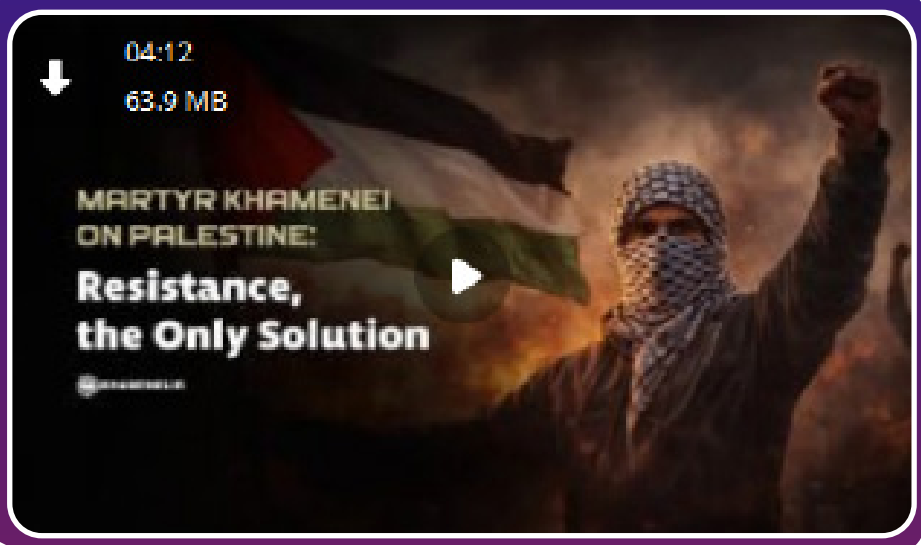
「殉教者ハーメネイーのパレスチナ観」は、パレスチナの大義に関する、殉教者イマーム・ハーメネイーの見解を取り上げるメディア企画です。



殉教者ハーメネイーの パレスチナ観

第3部:シオニスト体制の本質とは?

「殉教者ハーメネイーのパレスチナ観」は、パレスチナの大義に関する、殉教者イマーム・ハーメネイーの見解を取り上げたメディア作品です。



殉教者ハーメネイーの パレスチナ観

第4部:抵抗――唯一の解決策

「殉教者ハーメネイーのパレスチナ観」は、パレスチナの大義に関する、殉教者イマーム・ハーメネイーの見解を取り上げたメディア作品です。



殉教者ハーメネイーの
パレスチナ観

第5部:西側とシオニスト体制の関係

「殉教者ハーメネイーのパレスチナ観」は、パレスチナの大義に関する、殉教者イマーム・ハーメネイーの見解を取り上げたメディア作品です。



私の主は、私とともにおられる

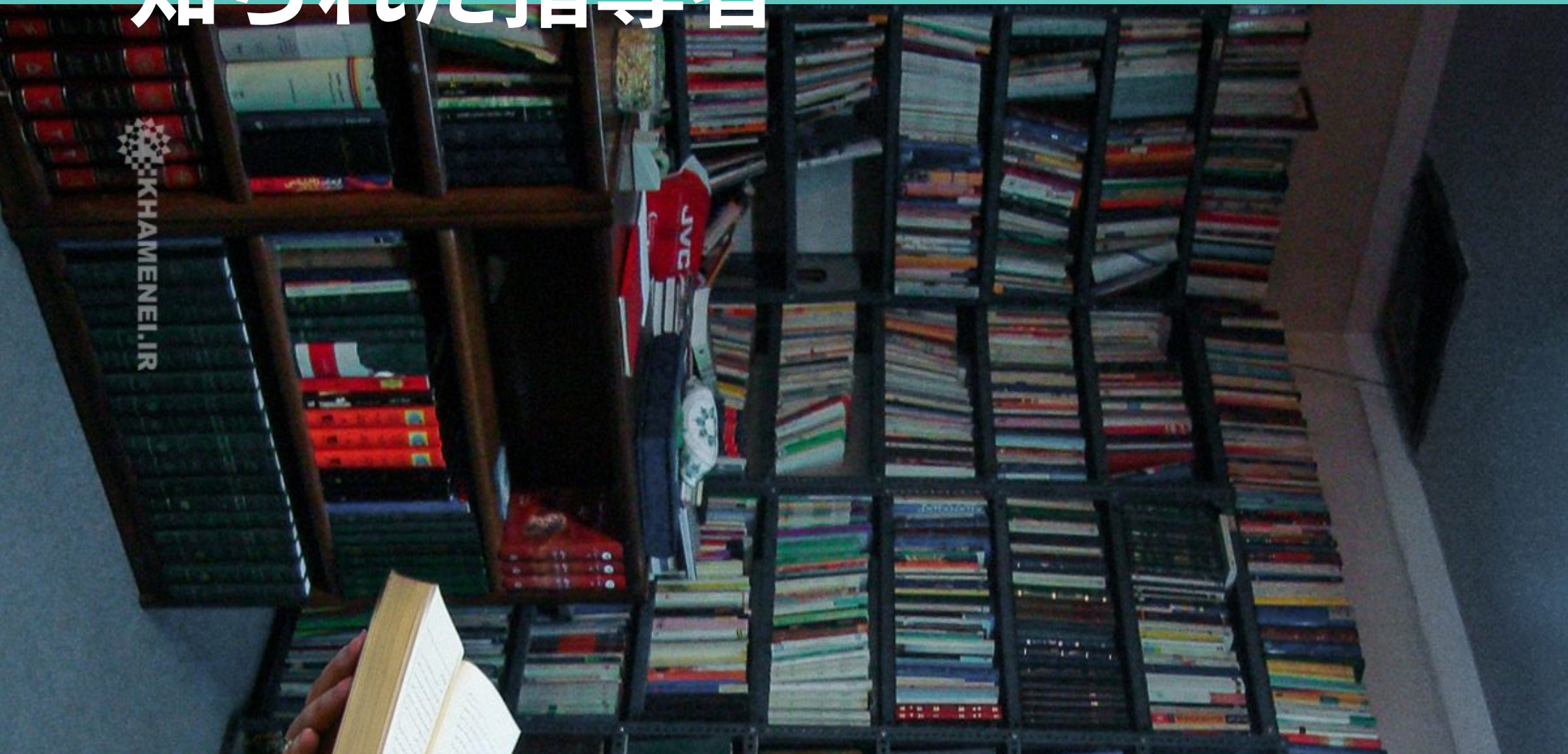
この動画で、殉教者ハーメネイーは全能の神への深い信仰を表し、あらゆる脅威や危険にもかかわらず、神への信仰は絶えず強まっていると語っています。



最終的な勝利

この動画で、若い戦士は殉教した指導者への愛と献身を表し、最終的な勝利に至るための導きを求めます。殉教者イマームは、こう助言します。「抵抗を続ければ、あなたは最高峰に到達するでしょう。真理が支配し、正義が支配する、その頂を。」

読書量で世界的に知られた指導者





خامنه‌ای





イマームの殉教から40日目

科学の発展運動
知のジハード
知識に基づく取り組み
職業上の良心
労働の倍増
努力の倍増
ジハードの精神による運営
抵抗の経済
生産の飛躍
ソフト戦争
文化的脅威
文化的NATO
支配されないこと
傲慢な支配との闘い
西アジア
ネットワークによる連携
人々の意欲
民衆の参加
民衆の動員
希望
自己への信頼
イスラームの覚醒
抵抗の枢軸
戦略的縦深

私たちにはできる
頂点
自己の陶冶
社会化
若さ
文明の建設
革命の第二段階
新たな世界秩序
人口の若年化
体制の構築
正義
腐敗との闘い
独立
自由
精神性
倫理
生活様式
殉教
名誉
叡智
関心
経済の廉潔性
宗教に基づく民衆の民主主義
翻訳運動
新たなイスラーム文明

殉教した指導者が示した、未来を見据える
主要な戦略的キーワード

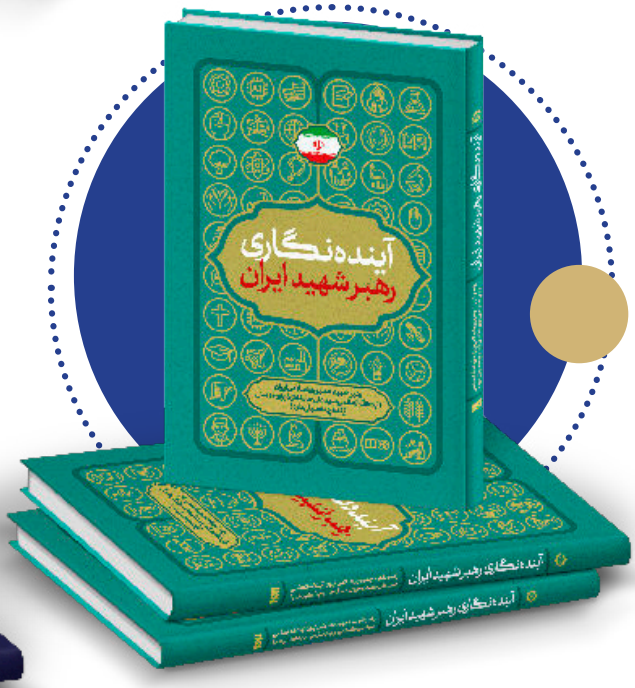
最新の出版物



イラン・イスラーム共和国の殉教した指導者が描いた未来像

大アーヤトッラー・セイエド・アリー・ハーメネイーは、今後40年の未来をどう見通していたのか？







殉教者イマームを追悼する国際詩祭

イスラーム文化・コミュニケーション機構は、他の文化機関や団体と協力し、国民の指導者であるアーヤトッラー・イマーム・ハーメネイーの殉教の周年に際して、詩祭を開催しました。世界各地の詩人が、さまざまな言語で書いた詩を発表しました。これらの詩は、まもなく書籍として刊行される予定です。



ru.khamenei.ir

大アーヤトッラー・ハーメネイー猊下の
著作保存・出版局

Office for the Preservation and Publication of the Works
of the Grand Ayatollah Sayyid Ali Khamenei

دفتر حفظ و نشر آثار حضرت آیت‌الله العظمی خامنه‌ای



موسسه فرهنگی، هنری و انتشارات بین المللی الهدی
Alhoda International, Cultural, Artistic and Publishing Institution
مؤسسة الهدى الثقافية و الفنية للنشر الدولي
alhodapub.com

سازمان فرهنگ و ارتباطات اسلامی
Islamic Culture & Relations Organization
منظمة الثقافة و العلاقات الاسلاميّة
icro.ir

Enghelab-Eslami Cultural & Research Institute
The Office for the Preservation and Publication of the Works of Ayatollah Sayyid Ali Khamenei